

宗谷線（旭川～稚内間）
事業計画（アクションプラン）

平成31年4月

JR北海道

序章（はじめに）

この計画は、宗谷線（旭川～稚内間）を維持・活性化するため、当面の2年間でJ R北海道と地域の関係者が一体となって取り組む内容を事業計画（アクションプラン）としてまとめたものである。

第1章 基本的事項

(1) 策定経緯

- 厳しい経営状況におかれたJ R北海道は、平成28年11月に単独では維持困難な線区を公表して、地域の関係者と協議を行ってきた。
- このような中、平成30年7月国土交通省は、J R北海道に対し、「J R北海道の経営改善に向けた取組」を着実に進めるよう監督命令を発出した。
- 監督命令に基づき、平成31年度及び32年度を「第1期集中改革期間」とし、J R北海道と地域の関係者が一体となって、利用促進やコスト削減などに取り組むとともに、持続的な鉄道網の確立に向け徹底的な検討を行うため、事業計画（アクションプラン）を策定することとした。

(2) 位置づけ

- この事業計画（アクションプラン）は、J R北海道の徹底した経営努力を前提として、鉄道を持続的に維持する仕組みを構築するために、J R北海道と地域の関係者が協力しながら、「監督命令」で命じられた「第1期集中改革期間」の2年間に具体的に取り組む内容を記載したものである。
- 将来に向けて線区の持続性を確保するため、この計画を共に取り組むことを通して、J R北海道と地域の関係者が一体となって取り組む気運を醸成する。

(3) 推進母体

- J R北海道を代表とする委員会を設置し、地域の関係者の協力を得ながら取り組む。
- このため、事業計画（アクションプラン）の推進を目的とする「宗谷線アクションプラン実行委員会」（以下「委員会」）及び事務レベルの「幹事会」を設置する。

※ 宗谷線アクションプラン実行委員会及び幹事会について

- ① 取組主体 J R北海道（委員会事務局）
- ② 関係者
 - 宗谷線沿線自治体の首長（委員会）、担当者（幹事会）

- ・ 沿線市町村（駅のある市町村）
旭川市、稚内市、士別市、名寄市、比布町、和寒町、 剣淵町、美深町、
音威子府村、中川町、豊富町、幌延町
- 広域行政機関
 - ・ 北海道
- 商工会議所
 - ・ 旭川商工会議所、士別商工会議所、名寄商工会議所、稚内商工会議所
- オブザーバー
 - ・ 国土交通省

(4) その他

- 宗谷線の当社単独では維持することが困難な線区としての区間は、名寄～稚内間であるが、この計画での取組区間は旭川～稚内間とする。

第2章 宗谷線のおかれた状況

(1) 関係市町村の状況

- 別添資料1～3ページのとおり

(2) 宗谷線の状況

- 別添資料4～33ページのとおり

(3) これまでの協議状況

- 平成28年11月18日JR北海道が「当社単独では維持困難な線区」を公表した後、関係者の間で、宗谷線における持続的な鉄道網のあり方について議論が行われてきた。
- JR北海道は、宗谷線を維持していきたいと考えているものの、単独では維持することが困難な状況にあることから、持続可能な交通体系のあり方について地域の皆様に問題提起を行った。
- 平成29年3月の宗谷本線活性化推進協議会意見交換会において、路線維持に向け、JR北海道を交えた事務担当者で構成する幹事会で協議を進めるよう、方向性が決定され、宗谷線の維持存続に向けた協議が進められた。
- 北海道は、「鉄道ネットワーク・ワーキングチーム・フォローアップ会議」を開催し、地域での議論を踏まえて「北海道の将来を見据えた鉄道網（維持困難線区）のあり方について」をとりまとめるとともに、平成30年3月にはこれを踏まえて「北海道交通政策総合指針」を策定した。

- これらの中では、宗谷線は次のとおり位置づけられた。

① 宗谷線の現状

- ロシア国境に近接し、我が国の領海、排他的経済水域等の保全に重要な役割を果たしている特定有人国境離島地域（利尻、礼文）を有する宗谷地域を結ぶとともに、今後のロシア極東地域と本道との交流拡大に向けた可能性を有する路線である。
- 札幌圏と中核都市から最も遠い地域中心都市である稚内市を結ぶ路線であり、鉄道は、札幌と稚内間における旅客輸送の半分以上のシェアを占めている。また、他府県の県庁所在都市と比較して、絶対的な移動時間が大きい。
- 沿線地域は国の広域観光周遊ルートに指定されており、インバウンド等による交流人口の飛躍的な拡大に向け、重要な役割を果たすことが期待される。
- 名寄～稚内間の高規格幹線道路については、一部が開通済であるが、未整備となっている区間がある。
- 通学や通院など住民の日常生活で利用されているが、一部利用の少ない区間もある。

② 宗谷線のあり方について

- ロシア極東地域と本道との交流拡大の可能性も見据え、国土を形成し、本道の骨格を構成する幹線交通ネットワークとして、負担等に係るこれまでの地域での協議を踏まえ、維持に向けて更に検討を進める。

- 平成30年7月27日には、国土交通省からJR北海道に対して「JR北海道の経営改善について」監督命令が発出され、JR北海道の経営改善に向けた取組を前提として鉄道を持続的に維持する仕組みの構築が必要な線区に対する方針が示された。
- 監督命令は、JR北海道に対し、「維持する仕組み」を構築していくための前提として、平成31年度及び平成32年度を「第1期集中改革期間」として、当社と地域の関係者が一体となって、利用促進や経費節減等に取り組み、持続的な鉄道網の確立に向け、2次交通を含めたあるべき交通体系について、徹底的に検討を行うことを命じた内容となっている。
- JR北海道は、監督命令を厳粛に受けとめ、北海道交通政策総合指針を尊重する所存であり、宗谷線を維持するため、地域の関係者のご理解とご協力を得ながら、2年間の取組を事業計画（アクションプラン）として策定し履行する。

第3章 取組方針

- JR北海道は、徹底した経営努力を前提として、鉄道を持続的に維持する仕組みの構築を行うために、地域の関係者のご協力を得ながら、地域の関係者と一体となり、以下の取組を進める。

(1) 目的

- 宗谷線を持続的に維持していくためには宗谷線の収入を増やし経費を節減することが必要不可欠である。
- このため、JR北海道と地域の関係者は、この計画を進めることにより、収支改善に資する具体的な取組を進める。また、これにより、JR北海道と地域の関係者が一体となって取り組む気運を醸成する。
- ※ なお、収支改善については、この計画による具体的取組以外にも、長期的な利用者の減少傾向や設備投資による減価償却費の増減など、様々な変動要素が考えられるが、これらの要素を分析し状況を把握することとする。

(2) 基本指標

- 計画開始前の基本指標は次のとおりである。基本指標とあわせ関連指標の推移も確認しながら進める。

① 収支状況（旭川～稚内間）

平成29年度（計画開始前） Δ 5,564百万円
（営業収益1,102百万円、営業費用6,666百万円）

② 輸送密度（旭川～稚内間）

| 国鉄分割民営化時（昭和62年度） | | 計画開始前（平成29年度） |
|------------------|----------|---------------|
| 名寄～稚内 | 751人/日 | → 352人/日 |
| 旭川～名寄 | 2,860人/日 | → 1,452人/日 |

※ 関連指標

駅別乗車人員、列車別乗車人員、駅間別乗車人員、駅間通過人員、定期券発売枚数 等

- JR北海道は、宗谷線の基本指標について、長期減少傾向がある中でも本計画の取組開始前と同水準を維持したいと考えている。検証の際は、以下の基本指標とともに、駅間輸送人員や発売実績などの関連指標も参考とする。

① 収支状況（目標）

平成32年度（計画終了時期） Δ 5,564百万円

② 輸送密度（目標）

| | | |
|----------------|-------|----------|
| 平成32年度（計画終了時期） | 名寄～稚内 | 352人/日 |
| | 旭川～名寄 | 1,452人/日 |

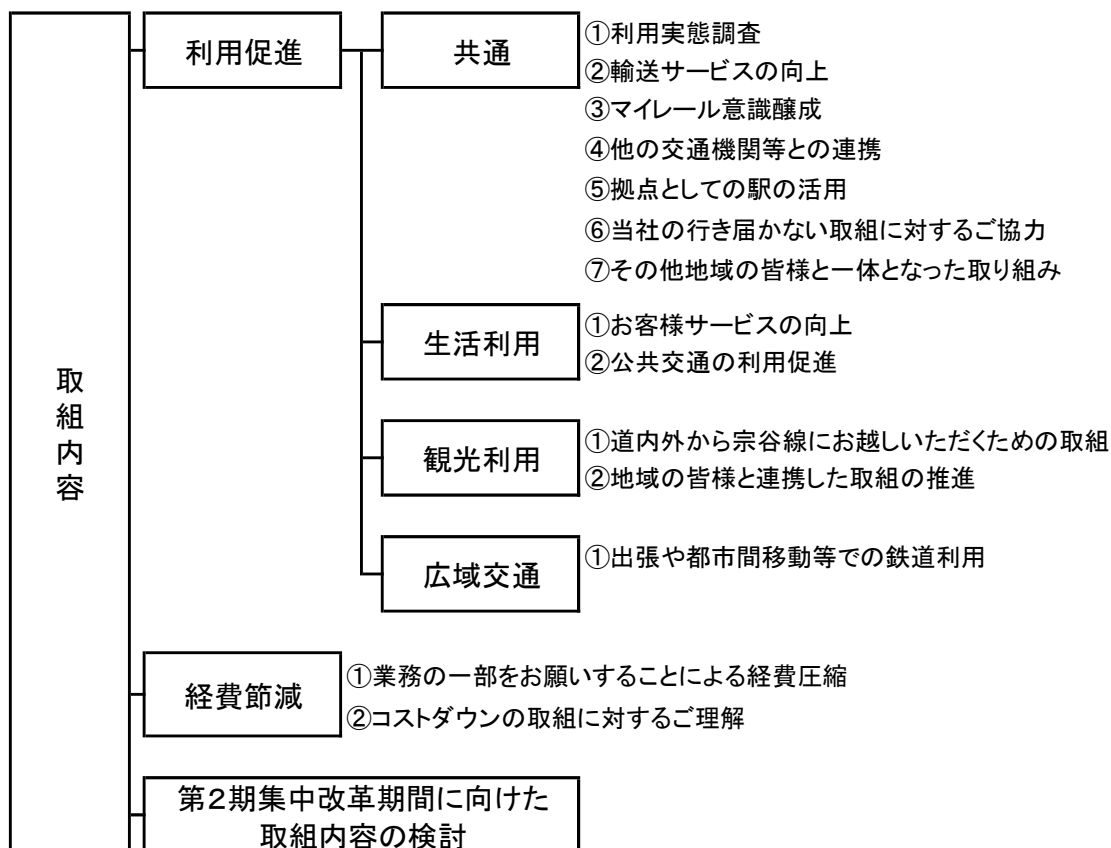
第4章 具体的取組内容

(1) 基本方針

- マイレール意識醸成など、JR北海道と地域の関係者が宗谷線の維持・活性に向けて更に一体となって取り組む。
- 宗谷線の収入を増やし、経費を節減するにあたって、利用促進策、経費節減策、鉄道施設の見直しについて、具体的な検討や取り組みを行う。
- 地域関係者にとっての都市間輸送と生活路線としての特性を持つことに加え、交流人口を更に拡大していく観光路線としての特性も合わせ、これら3つの側面を活かした取り組みを行う。

(2) 具体的取組内容

- 取組内容の構成は以下のとおり。また、具体的取組は別紙のとおりである。
 - ・ 「利用促進」「経費節減」の二つの観点から整理する。
 - ・ 「利用促進」については、ご利用形態に即して「共通」「生活利用」「観光利用」「広域交通」に分類して整理する。
 - ・ それぞれの取組内容について事業主体と具体的な取組内容を記述する。
 - ・ 第2期集中改革期間に向けた検討内容についても記述する。



第5章 今後の進め方

- この事業計画（アクションプラン）は、J R北海道と地域の関係者が一体となって取り組むものとする。
- 事業計画（アクションプラン）は、P D C Aサイクルに基づき必要な見直しを行いながら進める。具体的には、基本指標、関連指標や計画に盛り込まれた取組内容に基づき、利用促進や経費節減に向けた取組の実施結果、指標の推移状況について、委員会・幹事会において状況報告・意見交換や取組状況の検証を行う。
- こうした状況報告・意見交換や取組状況の検証を踏まえ、必要に応じて事業計画（アクションプラン）の見直しを行うとともに、基本指標についても年度実績を基に必要により見直しを検討する。
- 平成 32 年度末を目処に着実な取組が行われていることを前提として、第2期集中改革期間に移行する。
- この際には、第1期集中改革期間の取組状況や検証結果を反映した、第2期集中改革期間の事業計画（アクションプラン）を策定するものとする。
- 集中改革期間の最終年度（平成 35 年度）には総括的な検証を行う。

| | | 第1期集中改革期間 | | | | | | | | 第2期集中改革期間 | | | | | | |
|-----|-------------|-----------|--------|----|-----|----|--------|----|-----|-----------|------|------|------|------|--|---|
| | | 30年度 | 平成31年度 | | | | 平成32年度 | | | | 33年度 | 34年度 | 35年度 | 36年度 | | |
| | | IV | I | II | III | IV | I | II | III | IV | | | | | | |
| P | 事業計画完成・公表 | ● | | | | | | | | | | | | | | |
| | 委員会・幹事会の設置 | | ● | | | | | | | | | | | | | |
| D | 取組の実施 | | ←————→ | | | | | | | | | | | | | |
| | 状況報告・意見交換 | | ・ | ・ | ・ | ・ | | | | | | | | | | |
| C | 取組状況の検証 | | ・ | ・ | ・ | ● | | | | | | | | | | |
| A/P | 必要な見直し | | ・ | ・ | ・ | ● | | | | | | | | | | |
| D | 見直した取組の実施 | | | | | | ←————→ | | | | | | | | | |
| | 状況報告・意見交換 | | | | | | ・ | ・ | ・ | ・ | | | | | | |
| C | 第1期の検証 | | | | | | ・ | ・ | ・ | ● | | | | | | |
| A/P | 第2期の事業計画の策定 | | | | | | ・ | ・ | ・ | ● | | | | | | |
| D | 第2期に移行 | | | | | | | | | | ● | | | | | |
| C | 総括的な検証 | | | | | | | | | | | | | ● | | |
| A | 持続可能な交通体系 | | | | | | | | | | | | | | | → |

●：委員会、・：幹事会

P (P L A N) : 計画 (目標及び計画の策定)

D (D O) : 実行 (取組の実施)

C (C H E C K) : 点検・評価 (取組状況や効果の把握・評価(委員会での意見を踏まえ改善する))

A (A C T I O N) : 見直し (取組の改善・見直し(年度毎に利用促進策やコスト削減策等を見直す))

宗谷線 具体的取組

I 利用促進

1. 共通

| 区分 | 取組内容 | 事業主体 | スケジュール | | | | | | | | | |
|---------------------------------|---|---------------|--------|----|-----|----|-----|----|-----|----|--|--|
| | | | H29 | | H30 | | H31 | | H32 | | | |
| | | | 上期 | 下期 | 上期 | 下期 | 上期 | 下期 | 上期 | 下期 | | |
| (1) 利用実態調査 | ①統計値では把握しがたいお客様の層等を把握するための実態調査の新設 | JR北海道 全自治体 | | | | | | | | | | |
| (2) 輸送サービスの向上 | ①限りある車両でどのようなダイヤがよいか、地域の皆様と意見交換を実施 | 自治体 JR北海道 | | | | | | | | | | |
| (3) マイレール意識醸成 | ①通勤の際の鉄道を含めた公共交通利用促進 | 自治体 その他 | | | | | | | | | | |
| | ②公共交通機関利用の呼びかけ | | | | | | | | | | | |
| | ア. JR関係企画展の開催 | 自治体 | | | | | | | | | | |
| | イ. 広報誌等による鉄道利用の呼びかけ | 自治体 その他 | | | | | | | | | | |
| | ウ. 応援ポスター等の作成及び実施 | 自治体 その他 | | | | | | | | | | |
| | エ. 博物館等における鉄道歴史学習等 | 自治体 | | | | | | | | | | |
| | オ. ご当地キャラクターによる公共交通利用の呼びかけ | 自治体 | | | | | | | | | | |
| | カ. イベント実施時のJR利用促進PR 会場でのチラシ配布等 | 自治体 | | | | | | | | | | |
| | ③リーフレットの作成 線区の状況、利用のお願い、集中改革期間の内容等 について利用者にご理解いただく資料の作成 | JR北海道 | | | | | | | | | | |
| ④鉄道施設見学会などの際にJR社員による線区に関する説明の実施 | JR北海道 | | | | | | | | | | | |

1. 共通

| 区分 | 取組内容 | 事業主体 | スケジュール | | | | | | | | |
|-----------------|---------------------------------|--------------|--------|----|-----|----|-----|----|-----|----|--|
| | | | H29 | | H30 | | H31 | | H32 | | |
| | | | 上期 | 下期 | 上期 | 下期 | 上期 | 下期 | 上期 | 下期 | |
| (4) 他の交通機関等との連携 | ①バス、フェリー等との相互連携の推進 | | | | | | | | | | |
| | ア. JRダイヤ改正に合わせた地域バス時刻の変更 | 自治体 その他 | | | | | | | | | |
| | イ. イベント時の駅からの無料シャトルバスの運行 | 自治体 | | | | | | | | | |
| (5) 拠点としての駅の活用 | ①観光案内所・売店・飲食店等の設置 | | | | | | | | | | |
| | ア. 駅と隣接する観光情報センターの設置及び特別乗車票の販売等 | 自治体 JR北海道 | | | | | | | | | |
| | ②駅舎の整備 | | | | | | | | | | |
| | ア. 駅の修繕・改修 | 自治体 JR北海道 | | | | | | | | | |
| | ③駅前の整備、活用 | | | | | | | | | | |
| | ア. 駅前花壇整備 | 自治体 その他 | | | | | | | | | |
| | イ. パーク&トレインの拡大 | 自治体 JR北海道 | | | | | | | | | |
| | ウ. 駅前広場の改修 | 自治体 JR北海道 | | | | | | | | | |
| | エ. 駅前での乗り継ぎ環境向上 | 自治体 その他 | | | | | | | | | |
| | オ. 駅前広場駐車場との連携による利用環境向上 | 自治体 JR北海道 | | | | | | | | | |
| カ. 冬季における駅前の装飾 | 自治体 その他 | | | | | | | | | | |

1. 共通

| 区分 | 取組内容 | 事業主体 | スケジュール | | | | | | | | |
|------------------------|---------------------------------|----------------------|--------|----|-----|----|-----|----|-----|----|--|
| | | | H29 | | H30 | | H31 | | H32 | | |
| | | | 上期 | 下期 | 上期 | 下期 | 上期 | 下期 | 上期 | 下期 | |
| (5) 拠点としての駅の活用 | ④駅の活用 | | | | | | | | | | |
| | ア. 駅内に移住促進の相談コーナーの設置 | 自治体 JR北海道 | | | | | | | | | |
| | イ. 駅内の未使用空間の利活用 | その他 | | | | | | | | | |
| | ウ. 駅舎の待合環境の向上 | 自治体 JR北海道 その他 | | | | | | | | | |
| | ⑤駅の利便性の向上 | | | | | | | | | | |
| | ア. 駅裏通路等の新設による利便性の向上 | 自治体 | | | | | | | | | |
| (6) 当社の行き届かない取組に対するご協力 | イ. 駅前トイレの設置による利便性の向上 (5~10月) | 自治体 | | | | | | | | | |
| | ①駅での観光案内、外国人通訳の確保、きっぷの販売等 | | | | | | | | | | |
| (7) その他地域の皆様と一体となった取組み | ア. 駅におけるきっぷの販売 | 自治体 JR北海道 | | | | | | | | | |
| | ①協議会等での取組み | 全自治体 JR北海道 その他 | | | | | | | | | |

2. 生活利用

| 区分 | 取組内容 | 事業主体 | スケジュール | | | | | | | | | |
|----------------|--------------------------|-------|--------|----|-----|----|-----|----|-----|----|--|--|
| | | | H29 | | H30 | | H31 | | H32 | | | |
| | | | 上期 | 下期 | 上期 | 下期 | 上期 | 下期 | 上期 | 下期 | | |
| (1) お客様サービスの向上 | ①大規模輸送障害発生時の運休等情報内容の充実 | JR北海道 | | | | | | | | | | |
| (2) 公共交通の利用促進 | ①鉄道利用促進のための補助制度等の検討および導入 | | | | | | | | | | | |
| | ア. 高齢者へのJR回数券の交付 | 自治体 | | | | | | | | | | |
| | イ. 高校通学生への通学補助 | 自治体 | | | | | | | | | | |

3. 観光利用

| 区分 | 取組内容 | 事業主体 | スケジュール | | | | | | | | | | |
|-------------------------------|---|----------------------|--------|----|-----|----|-----|----|-----|----|--|--|--|
| | | | H29 | | H30 | | H31 | | H32 | | | | |
| | | | 上期 | 下期 | 上期 | 下期 | 上期 | 下期 | 上期 | 下期 | | | |
| (1) 道内外から宗谷線にお越し いただくための取組 | ①商品造成やキャンペーンの実施 ・LCCとタイアップしたフリーパスの設定 | JR北海道 | | | | | | | | | | | |
| | ②閑散期の需要創出 ・フリーパス等を活用した宗谷線利用促進の取組 | JR北海道 その他 | | | | | | | | | | | |
| | ③宣伝協力 ・駅等での宣伝協力 | JR北海道 自治体 その他 | | | | | | | | | | | |
| | ④観光列車「びゅうコースター風っこ」による観光需要の 創出 | JR北海道 全自治体 その他 | | | | | | | | | | | |
| (2) 地域の皆様と連携した取組の 推進 | ①沿線や周辺地域にお住まいの皆様を対象とした お出かけの呼びかけ | | | | | | | | | | | | |
| | ア. 地域住民を対象とした日帰り旅行の実施 | 自治体 | | | | | | | | | | | |
| | イ. 町民乗車票販売による利便性確保 | 自治体 JR北海道 | | | | | | | | | | | |
| | ウ. ヘルシーウォーキングの実施 | 自治体 JR北海道 その他 | | | | | | | | | | | |
| | ②地域のお祭りやイベント等を活用した鉄道利用促進 | | | | | | | | | | | | |
| | ア. イベント時の特急列車増結への協力 | 自治体 JR北海道 | | | | | | | | | | | |
| | イ. 駅等におけるイベントの実施 | 自治体 その他 | | | | | | | | | | | |
| | ウ. 地域のイベントと連動した鉄道利用促進策の実施 | 自治体 その他 | | | | | | | | | | | |
| | エ. イベント時のJR利用者に対する特産品プレゼント | 自治体 | | | | | | | | | | | |

3. 観光利用

| 区分 | 取組内容 | 事業主体 | スケジュール | | | | | | | | | | |
|---------------------|--------------------------------------|---------------------|--------|----|-----|----|-----|----|-----|----|--|--|--|
| | | | H29 | | H30 | | H31 | | H32 | | | | |
| | | | 上期 | 下期 | 上期 | 下期 | 上期 | 下期 | 上期 | 下期 | | | |
| (2) 地域の皆様と連携した取組の推進 | ③観光資源の積極的な活用 | | | | | | | | | | | | |
| | ア. 駅舎や車両を題材とした絵画コンクール等の実施 | 自治体 | | | | | | | | | | | |
| | イ. 秘境駅保存のための「ふるさと納税」創設、保全イベントの実施 | 自治体 JR北海道 | | | | | | | | | | | |
| | ウ. 沿線PR活動等の実施 | その他 | | | | | | | | | | | |
| | エ. 沿線観光名所の整備及び名所を活かしたイベントの開催 | 自治体 JR北海道 その他 | | | | | | | | | | | |
| | オ. サイクリング観光客への鉄道利用PR | 自治体 その他 | | | | | | | | | | | |
| | ④パンフレットやHPの作成連携 | | | | | | | | | | | | |
| | ア. イベントパンフレットや観光案内パンフレットによるJR利用の呼びかけ | 自治体 その他 | | | | | | | | | | | |
| | ⑤宗谷線を組み入れた旅行会社等と協力したイベント等の企画・実施 | | | | | | | | | | | | |
| | ア. ツアーの企画・実施 | 自治体 JR北海道 | | | | | | | | | | | |
| | ⑥特産品・グッズ等の企画・販売 | | | | | | | | | | | | |
| | ア. 地元限定宗谷本線グッズ、駅PRグッズ等の販売等 | 自治体 その他 | | | | | | | | | | | |
| | ⑦特急列車内の特産品販売 ※宗谷線における継続実施 | 自治体 JR北海道 その他 | | | | | | | | | | | |

4. 広域交通

| 区分 | 取組内容 | 事業主体 | スケジュール | | | | | | | | | |
|---------------------|-----------------------------|-------|--------|----|-----|----|-----|----|-----|----|--|--|
| | | | H29 | | H30 | | H31 | | H32 | | | |
| | | | 上期 | 下期 | 上期 | 下期 | 上期 | 下期 | 上期 | 下期 | | |
| (1) 出張や都市間移動等での鉄道利用 | ①官公庁における出張時の鉄道利用の取り組み | 全自治体 | | | | | | | | | | |
| | ②えきねっとくだ値による需要や動向を踏まえた割引の設定 | JR北海道 | | | | | | | | | | |

II 経費節減

| 区分 | 取組内容 | 事業主体 | スケジュール | | | | | | | | | |
|--------------------------|---|--------------|--------|----|-----|----|-----|----|-----|----|--|--|
| | | | H29 | | H30 | | H31 | | H32 | | | |
| | | | 上期 | 下期 | 上期 | 下期 | 上期 | 下期 | 上期 | 下期 | | |
| (1) 業務の一部をお願いすることによる経費圧縮 | ①業務委託の実施 ・乗車券の発売 | 自治体 JR北海道 | | | | | | | | | | |
| | ②駅舎、待合室の自治体等による維持管理 | 自治体 | | | | | | | | | | |
| (2) コストダウンの取組に対するご理解 | ①極端にご利用の少ない駅の廃止または自治体による維持管理についての各自治体との協議 ・第1期集中改革期間中に取り扱いを整理し、実施する。 | 自治体 JR北海道 | | | | | | | | | | |
| | ②ご利用の少ない踏切の見直しについての各自治体との協議 | 自治体 JR北海道 | | | | | | | | | | |

Ⅲ 第2期集中改革期間に向けた取組内容の検討

| 区分 | 取組内容 | 事業主体 | スケジュール | | | | | | | | | |
|----------------------------------|--|---------------------|--------|----|-----|----|-----|----|-----|----|--|--|
| | | | H29 | | H30 | | H31 | | H32 | | | |
| | | | 上期 | 下期 | 上期 | 下期 | 上期 | 下期 | 上期 | 下期 | | |
| (1) あるべき交通体系について 徹底的な検討 | ①さらに利用されるダイヤの構築の研究等 | 自治体 JR北海道 その他 | | | | | | | | | | |
| | ②2次交通との連携に向けた検討 | 自治体 JR北海道 その他 | | | | | | | | | | |
| (2) 拠点としての駅の活用 | ①観光案内所・売店・飲食店等の設置拡大の検討 | 自治体 JR北海道 その他 | | | | | | | | | | |
| | ②駅を中心とした街づくり ・駅周辺に店舗・公共施設の設置の推進のお願い | 自治体 JR北海道 | | | | | | | | | | |
| (3) 業務の一部をお願いすることによる 経費圧縮のご相談 | ①業務委託のご相談 | 自治体 JR北海道 その他 | | | | | | | | | | |
| | ②業務のお手伝いのお願い | 自治体 JR北海道 その他 | | | | | | | | | | |
| | ③当社の行き届かない取組に対するご協力 | 自治体 JR北海道 その他 | | | | | | | | | | |
| (4) 中長期的な利用促進策について の検討 | ①中長期的な視点に立った利用促進の可能性について 検討 | 自治体 JR北海道 その他 | | | | | | | | | | |
| (5) 中長期的な経費節減策について の検討 | ①中長期的な視点に立った設備スリム化の可能性に ついて検討 | 自治体 JR北海道 | | | | | | | | | | |
| (6) 客貨混載の検討 | ①実施に向けた検討 | JR北海道 その他 | | | | | | | | | | |

【別添資料】

(1) 関係市町村の状況

| | |
|------------------------|-----------|
| ①総人口の推移[年齢別] |1ページ |
| ②市町村別人口の推移 |2ページ |
| ③市町村別通学年齢人口(15～19歳)の推移 |3ページ |

(2) 宗谷線(旭川・稚内間)の状況

| | |
|----------------------------|---------------|
| ①沿線地図 |4ページ |
| ②沿革 |5ページ |
| ③諸元 |5ページ |
| ④ご利用状況の推移(輸送密度の推移) |6～7ページ |
| ⑤定期列車本数の推移 |8～9ページ |
| ⑥駅別乗車人員 |10～12ページ |
| ⑦列車別乗車人員 |13～15ページ |
| ⑧駅間別乗車人員 |16～17ページ |
| ⑨駅間通過人員 |18～19ページ |
| ⑩定期券発売枚数 |20～22ページ |
| ⑪線区別収支 |23～24ページ |
| ⑫土木建造物の現況、土木構造物の大規模修繕・更新費用 |25～32ページ |
| ⑬車両の更新費用 |33ページ |

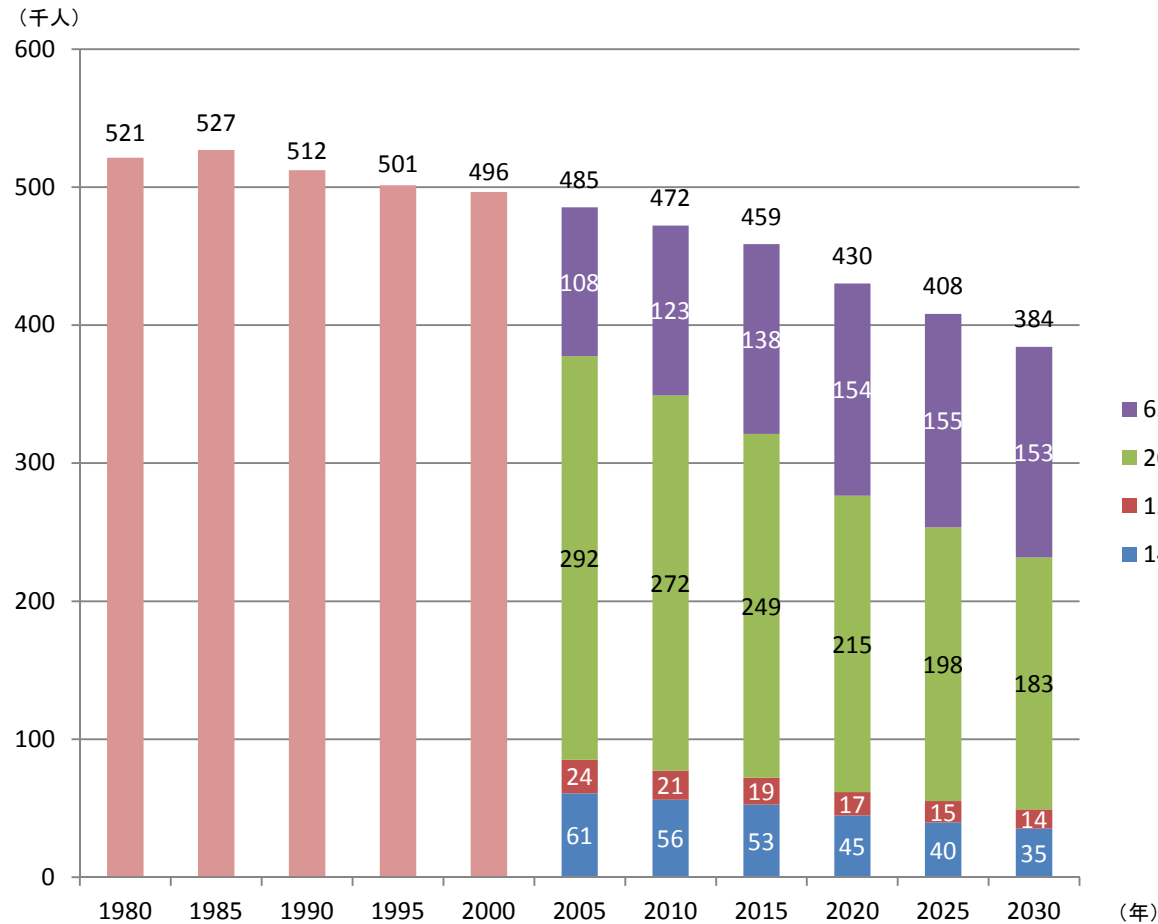
注)

各データとも平成29年度

| | |
|----------|---|
| ④輸送密度 | :ご利用されるお客様の1日1kmあたりの平均人数 |
| ⑥駅別乗車人員 | :特定日の調査における、実際にご乗車されたお客様の駅ごとの人数(直近5年間の平均) |
| ⑦列車別乗車人員 | :特定日の調査における、実際にご乗車されたお客様の列車ごとの人数 |
| ⑧駅間別乗車人員 | :特定日の調査における、実際にご乗車されたお客様の駅間ごとの人数 |
| ⑨駅間通過人員 | :きっぷの発売状況に基づく、1日あたりのお客様の駅間ごとの人数 |
| ⑩定期券発売枚数 | :1か月あたりの各駅相互間の通勤・通学定期券の発売枚数 |

(1) 関係市町村の状況

① 総人口の推移〔年齢別〕



(出典)

- ・2000年以前 住民基本台帳人口・世帯数【北海道地域振興局町村課】
 - ・2005年～2015年 振興局市区町村別年齢5歳階級別人口【北海道地域振興局町村課】
 - ・2020年以降 日本の地域別将来推計人口(平成30(2018)年推計)【国立社会保障・人口問題研究所】
- ※2005年以前の士別市には朝日町、名寄市には風連町の実績を含む。

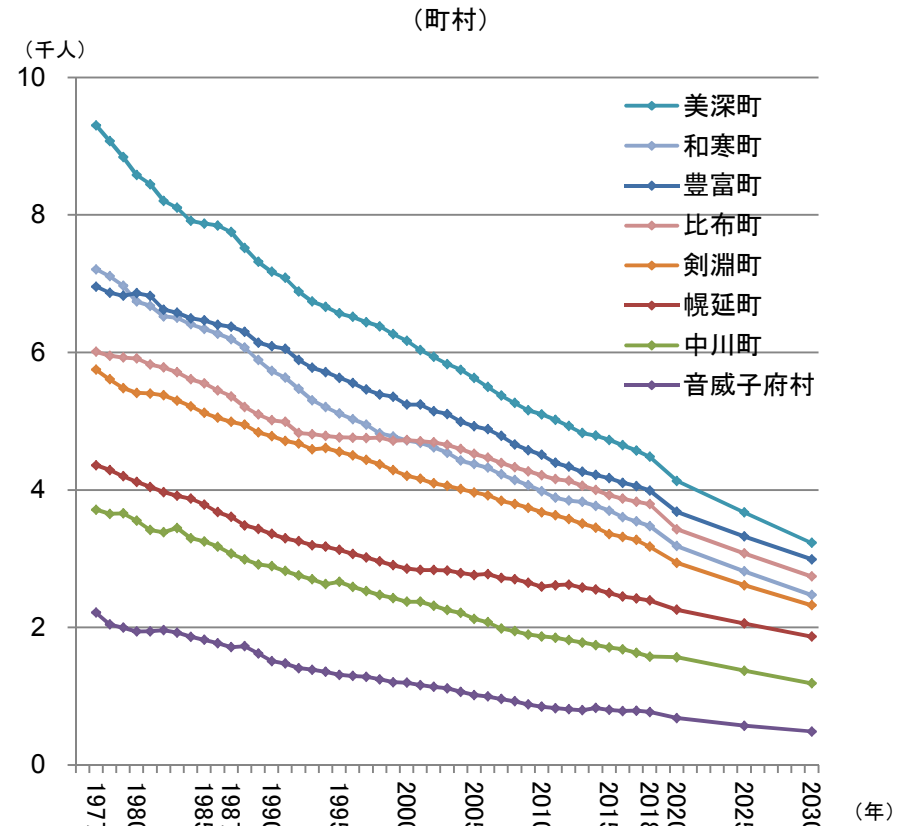
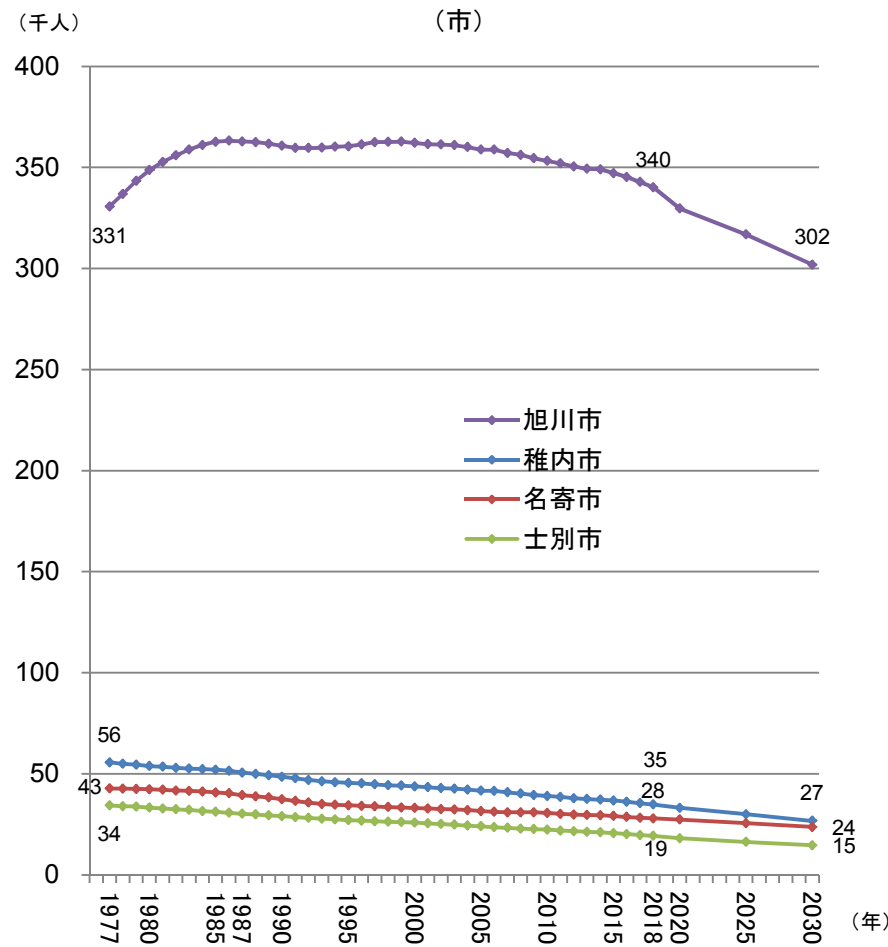
宗谷線(旭川～稚内間)の関係市町村の総人口は、約46万人(2018年)である。

その推移をみると、全体的に減少傾向が続いており、JR北海道発足時(1987年)と比較すると、2018年で14.6%減少し、2030年(推計)では26.4%減少が見込まれる。

年齢別では、年齢別人口が公表された2002年と比較すると65歳以上が増加しており、2018年で46.1%増、2030年(推計)では53.2%増が見込まれている。一方で、通学定期の主な対象者である15～19歳は2018年で-31.7%、2030年(推計)では-53.2%と半減することが見込まれている。

市町村別では全ての市町村で人口が減少しており、今後も減少が予測されている。減少率は、旭川市がもっとも緩やかである。15～19歳の人口は、各市町村とも大幅に減少しており、今後もさらに減少することが予測されている。

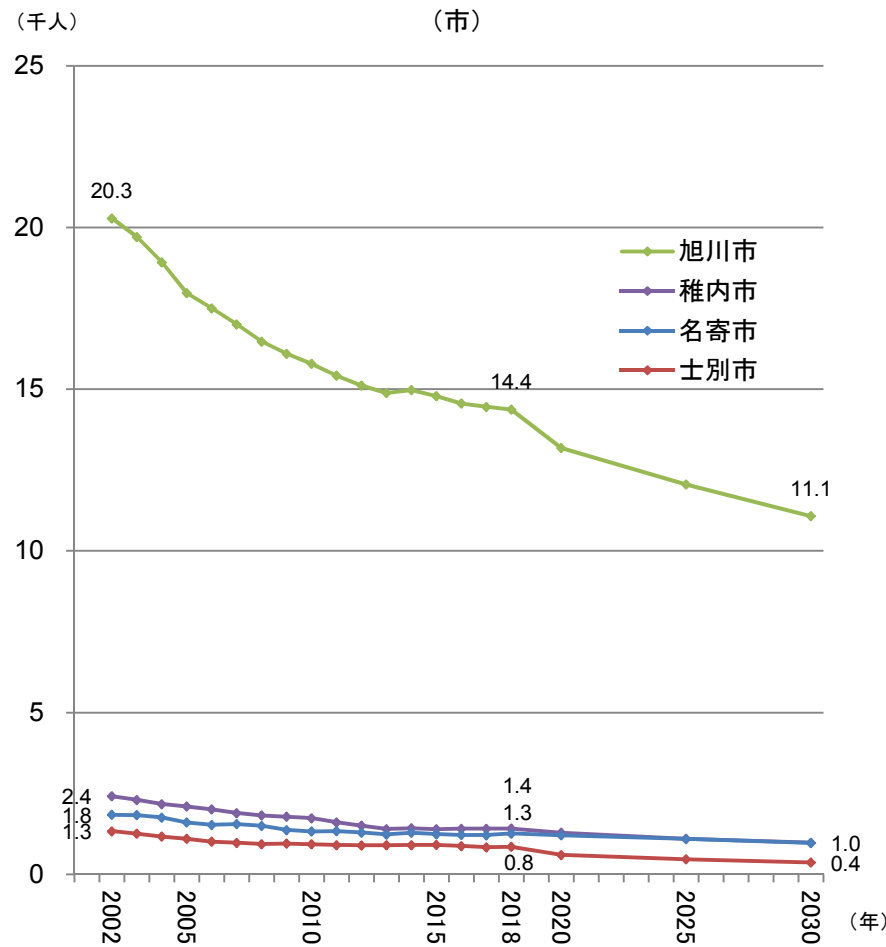
②市町村別人口の推移



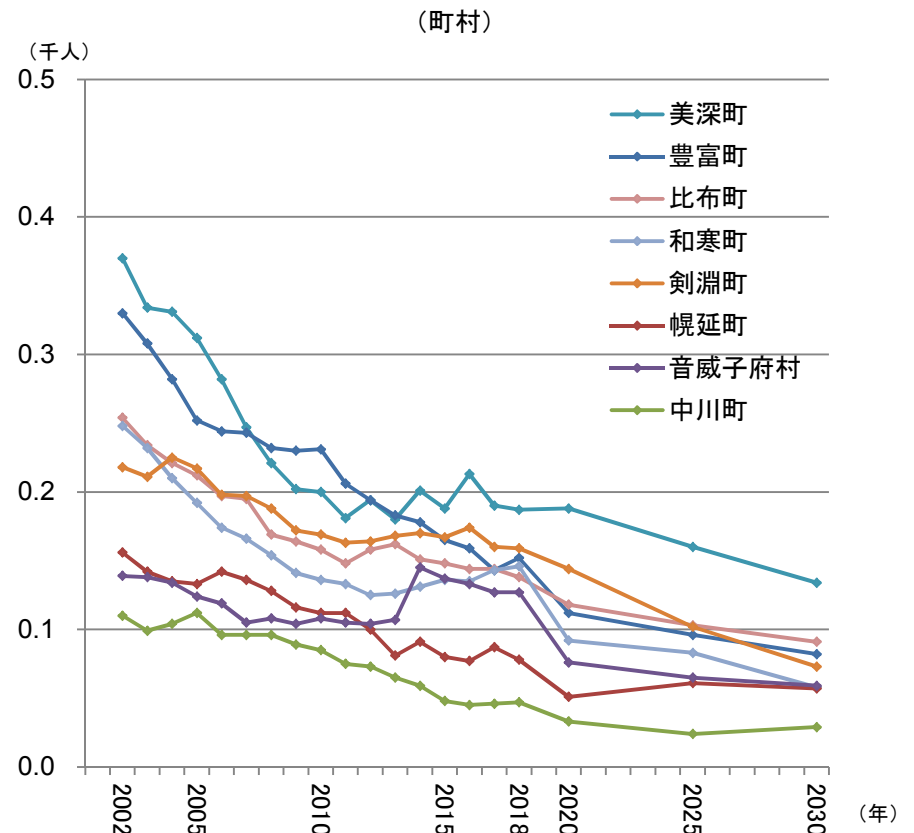
| | 1977年 | ～ | ～ | 2018年 | ～ | 2030年 |
|-------|-------|---|---|-------|---|-------|
| 美深町 | 9.3 | | | 4.5 | | 3.2 |
| 和寒町 | 7.2 | | | 3.5 | | 2.5 |
| 豊富町 | 7.0 | | | 4.0 | | 3.0 |
| 比布町 | 6.0 | | | 3.8 | | 2.7 |
| 剣淵町 | 5.7 | | | 3.2 | | 2.3 |
| 幌延町 | 4.4 | | | 2.4 | | 1.9 |
| 中川町 | 3.7 | | | 1.6 | | 1.2 |
| 音威子府村 | 2.2 | | | 0.8 | | 0.5 |

(出典)
 ・2018年以前 住民基本台帳人口・世帯数【北海道地域振興局町村課】
 ・2020年以降 日本の地域別将来推計人口(平成30(2018)年推計)【国立社会保障・人口問題研究所】
 ※2005年以前の士別市には朝日町、名寄市には風連町の実績を含む。

③市町村別 通学年齢人口(15~19歳)の推移



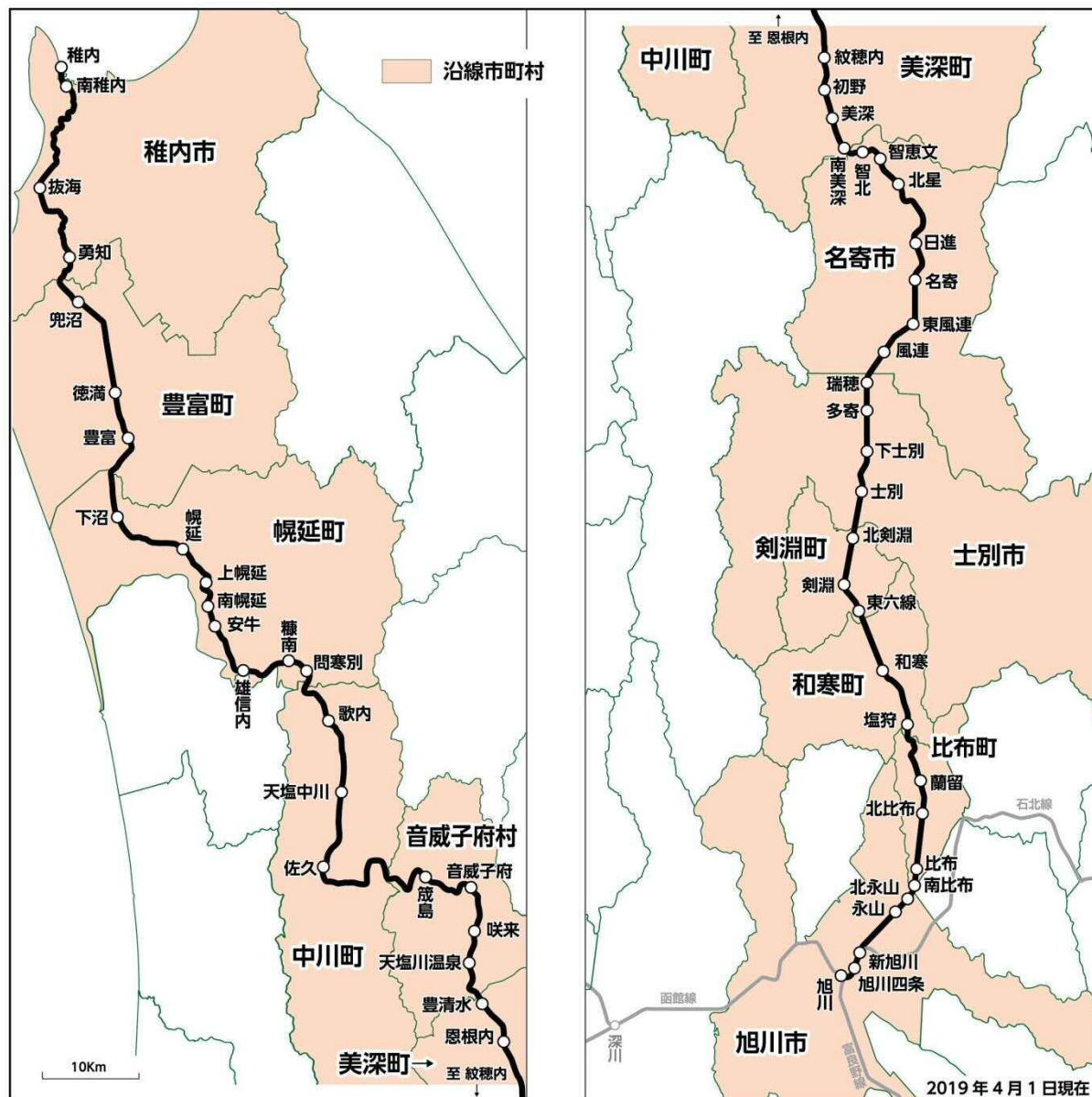
(出典)
 ・2018年以前 振興局市区町村別年齢5歳階級別人口【北海道地域振興局町村課】
 ・2020年以降 日本の地域別将来推計人口(平成30(2018)年推計)【国立社会保障・人口問題研究所】
 ※2005年以前の士別市には朝日町、名寄市には風連町の実績を含む。



| | 2002年 | ~ | 2018年 | ~ | 2030年 |
|-------|-------|---|-------|---|-------|
| 美深町 | 0.37 | | 0.19 | | 0.13 |
| 豊富町 | 0.33 | | 0.15 | | 0.08 |
| 比布町 | 0.25 | | 0.14 | | 0.09 |
| 和寒町 | 0.25 | | 0.15 | | 0.06 |
| 剣淵町 | 0.22 | | 0.16 | | 0.07 |
| 幌延町 | 0.16 | | 0.08 | | 0.06 |
| 音威子府村 | 0.14 | | 0.13 | | 0.06 |
| 中川町 | 0.11 | | 0.05 | | 0.03 |

(2) 宗谷線(旭川・稚内間)の状況

① 沿線地図



②沿革

- ・宗谷線旭川・名寄間は、天塩線として建設され、旭川より名寄に向かって段階的に開業しながら1903年（明治36年）に全線が開業しました。全線が開業して115年を経過しています。
- ・宗谷線名寄・稚内間は、天塩線、天塩南線、天塩北線として建設され、段階的に開業しながら、1926年（大正15年）に全線が開業しました。全線が開業して92年を経過しています。

主な開業年と開業区間は右表となっています。

| 開業年 | 開業区間 |
|------------|----------|
| 1898(明治31) | 旭川～蘭留 |
| 1899(明治32) | 蘭留～和寒 |
| 1900(明治33) | 和寒～士別 |
| 1903(明治36) | 士別～名寄 |
| 1911(明治44) | 名寄～恩根内 |
| 1912(大正1) | 恩根内～音威子府 |
| 1926(大正15) | 音威子府～稚内 |

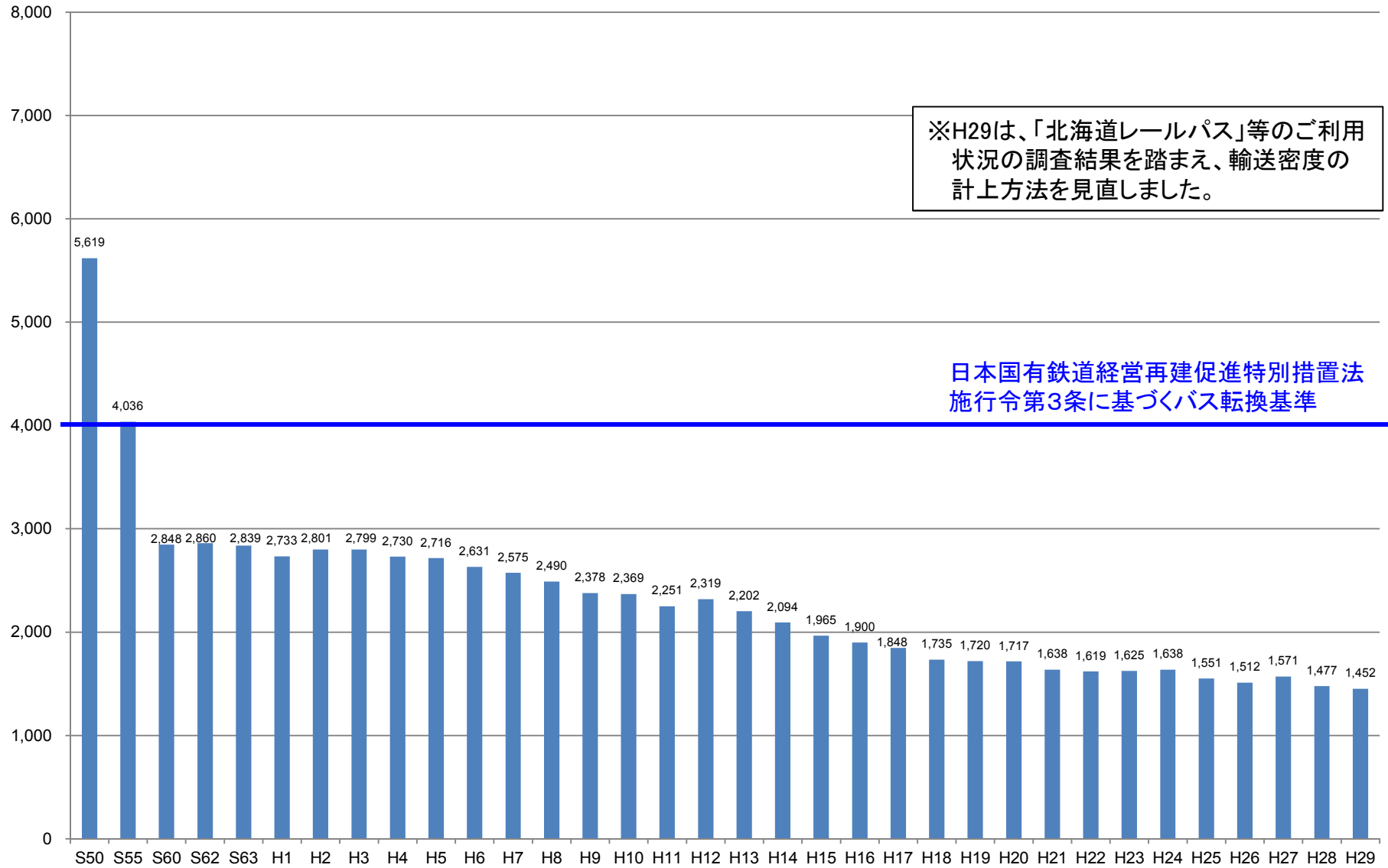
③諸元(2018年4月1日現在)

- ・ 区間 旭川～稚内
- ・ 営業キロ 259.4km
- ・ 列車本数 特急上下6本 普通上下51本
- ・ 駅数 53駅（うち有人8駅）
- ・ 沿線自治体 旭川市、比布町、和寒町、剣淵町、士別市、名寄市、美深町、音威子府村、中川町、幌延町、豊富町、稚内市

④ご利用状況の推移(輸送密度の推移)

〔旭川・名寄間〕

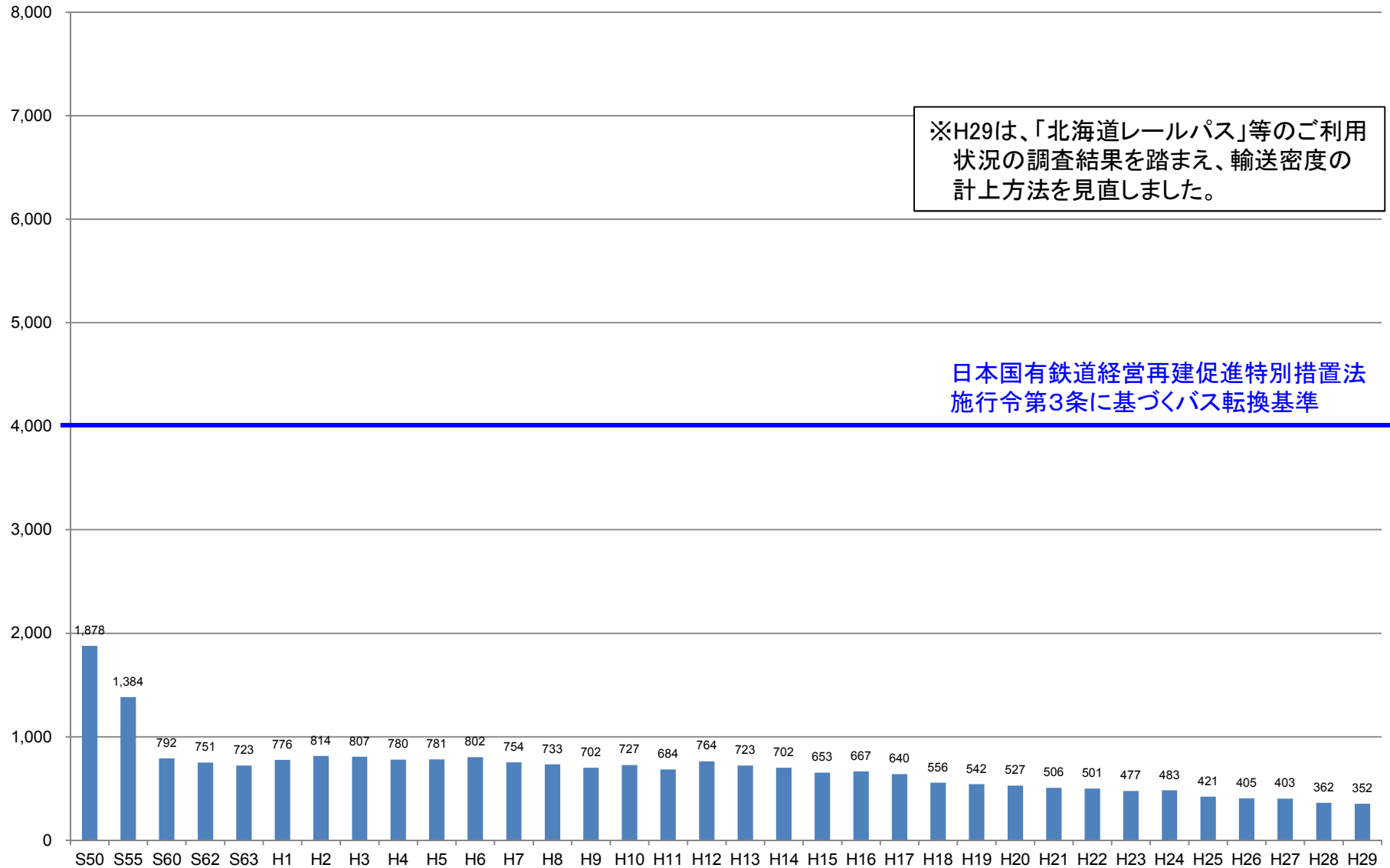
(人/キロ/日)



④ご利用状況の推移(輸送密度の推移)

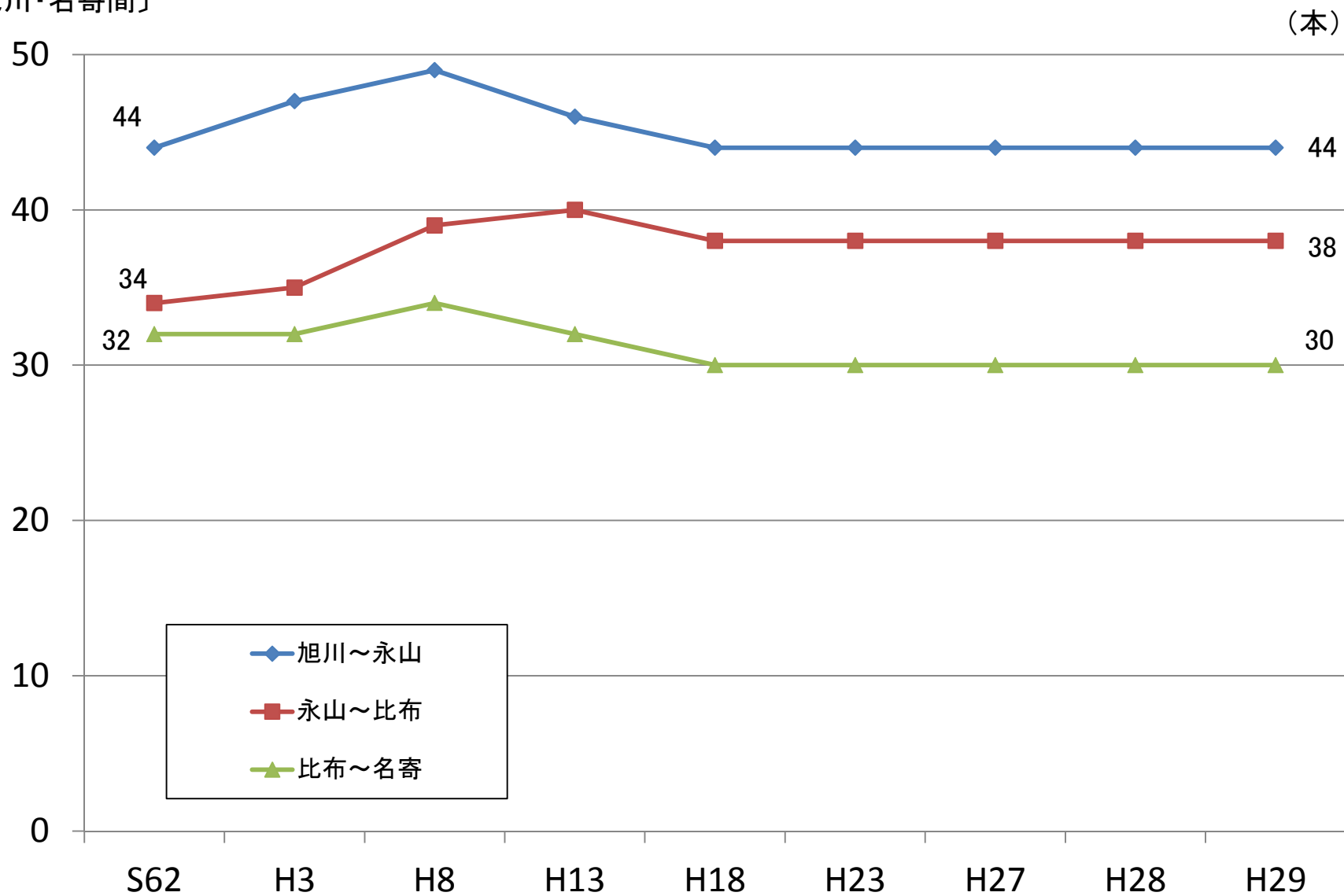
[名寄・稚内間]

(人/キロ/日)



⑤定期列車本数の推移

〔旭川・名寄間〕

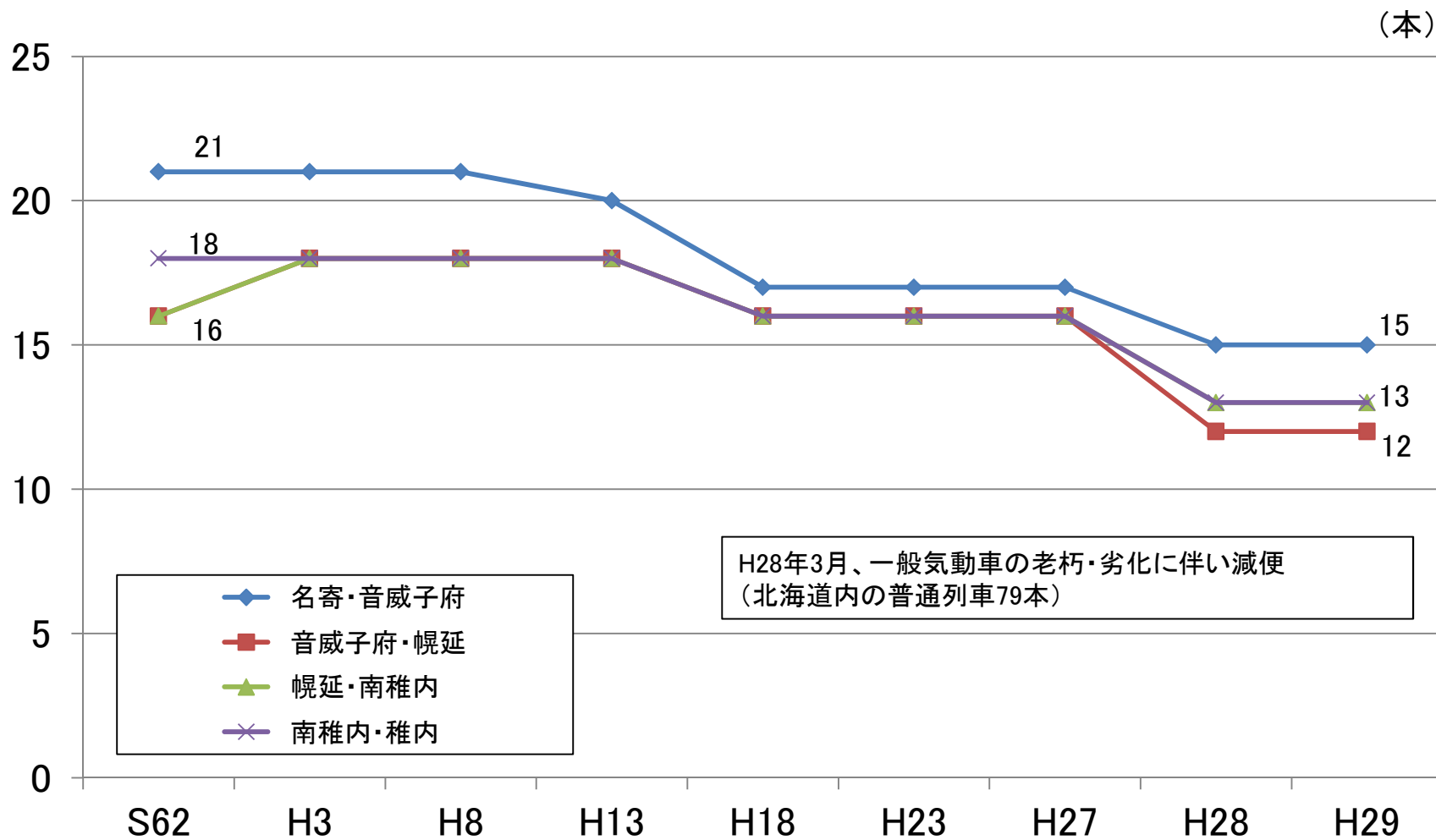


※特急、急行列車を含みます。

※S62は「急行天北」を除き、天北線直通列車は含んでおりません。

⑤定期列車本数の推移

〔名寄・稚内間〕

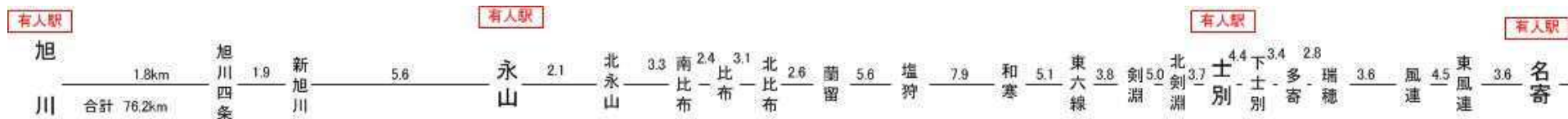


※特急、急行列車を含みます。

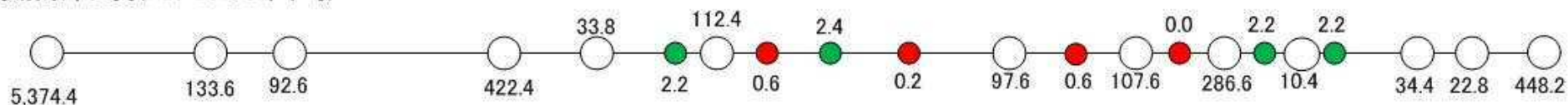
※S62は「急行天北」を除き、天北線直通列車は含んでおりません。

⑥ 駅別乗車人員

〔旭川・名寄間〕



駅別乗車人員 (H25-29の5年平均)

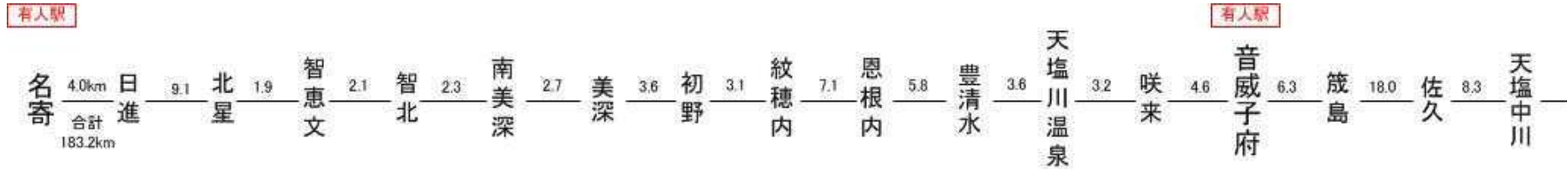


※乗車人員1日平均

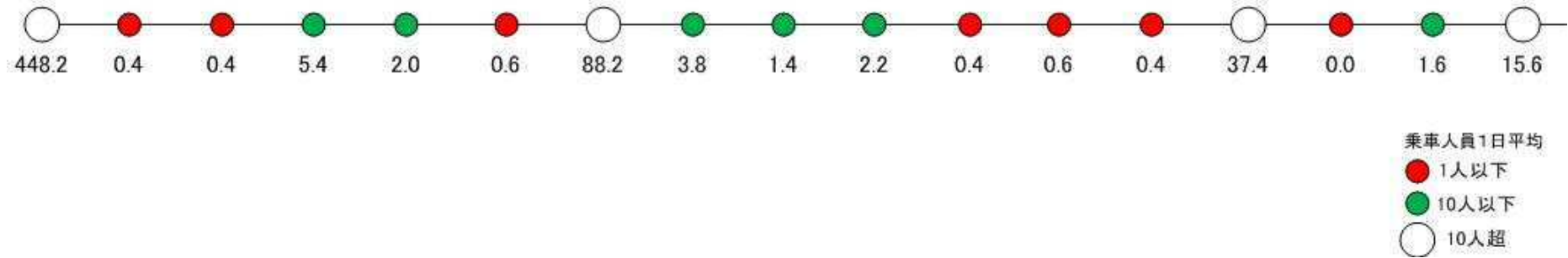
- 1人以下
- 10人以下
- 10人超

⑥ 駅別乗車人員

〔名寄・天塩中川間〕



駅別乗車人員 (H25-29の5年平均)

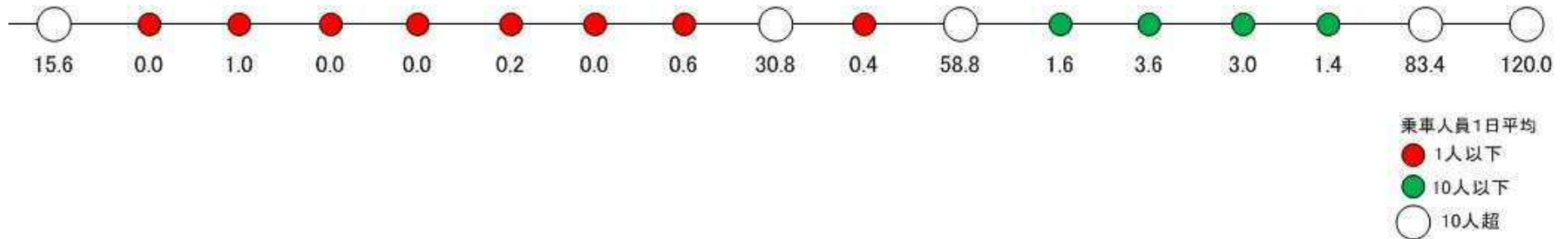


⑥ 駅別乗車人員

〔天塩中川・稚内間〕



駅別乗車人員 (H25-29の5年平均)



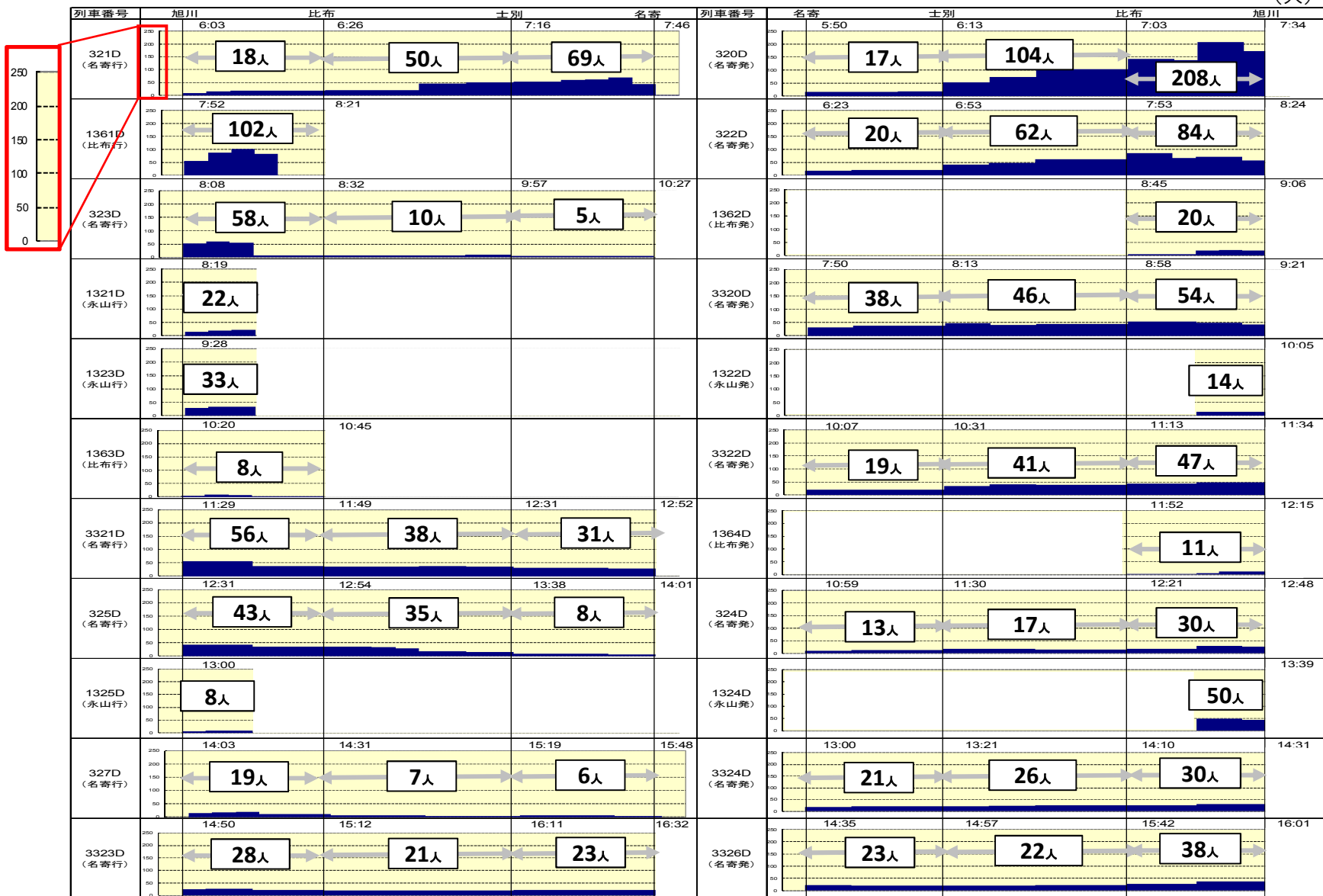
⑦列車別乗車人員

[旭川・名寄間]

◆下り列車 (旭川⇒名寄)

◆上り列車 (名寄⇒旭川)

人数は区間における最大乗車人員
(人)



※平成29年(平日)調査による

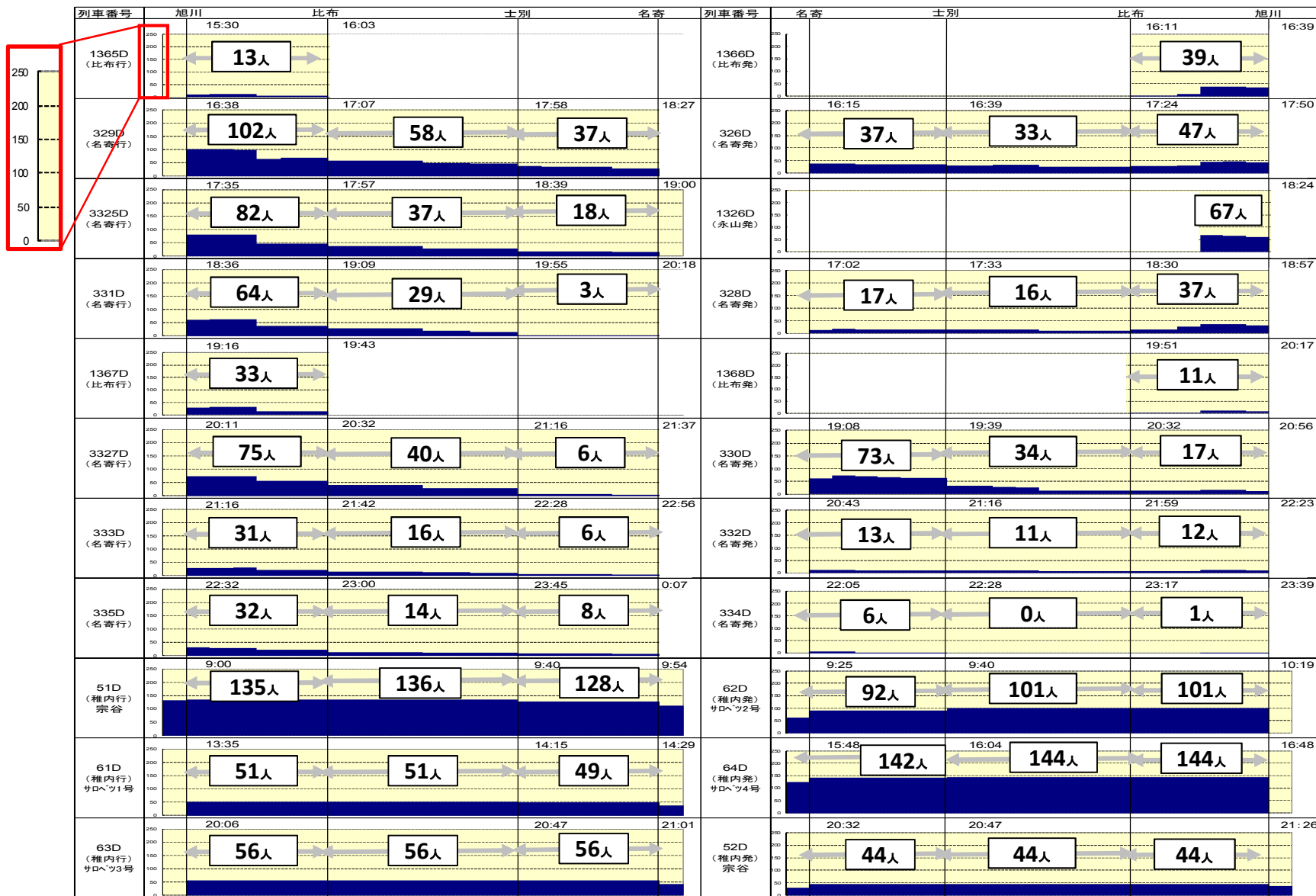
⑦列車別乗車人員

[旭川・名寄間]

人数は区間における最大乗車人員 (人)

◆下り列車 (旭川⇒名寄)

◆上り列車 (名寄⇒旭川)



※平成29年(平日)調査による

⑦列車別乗車人員

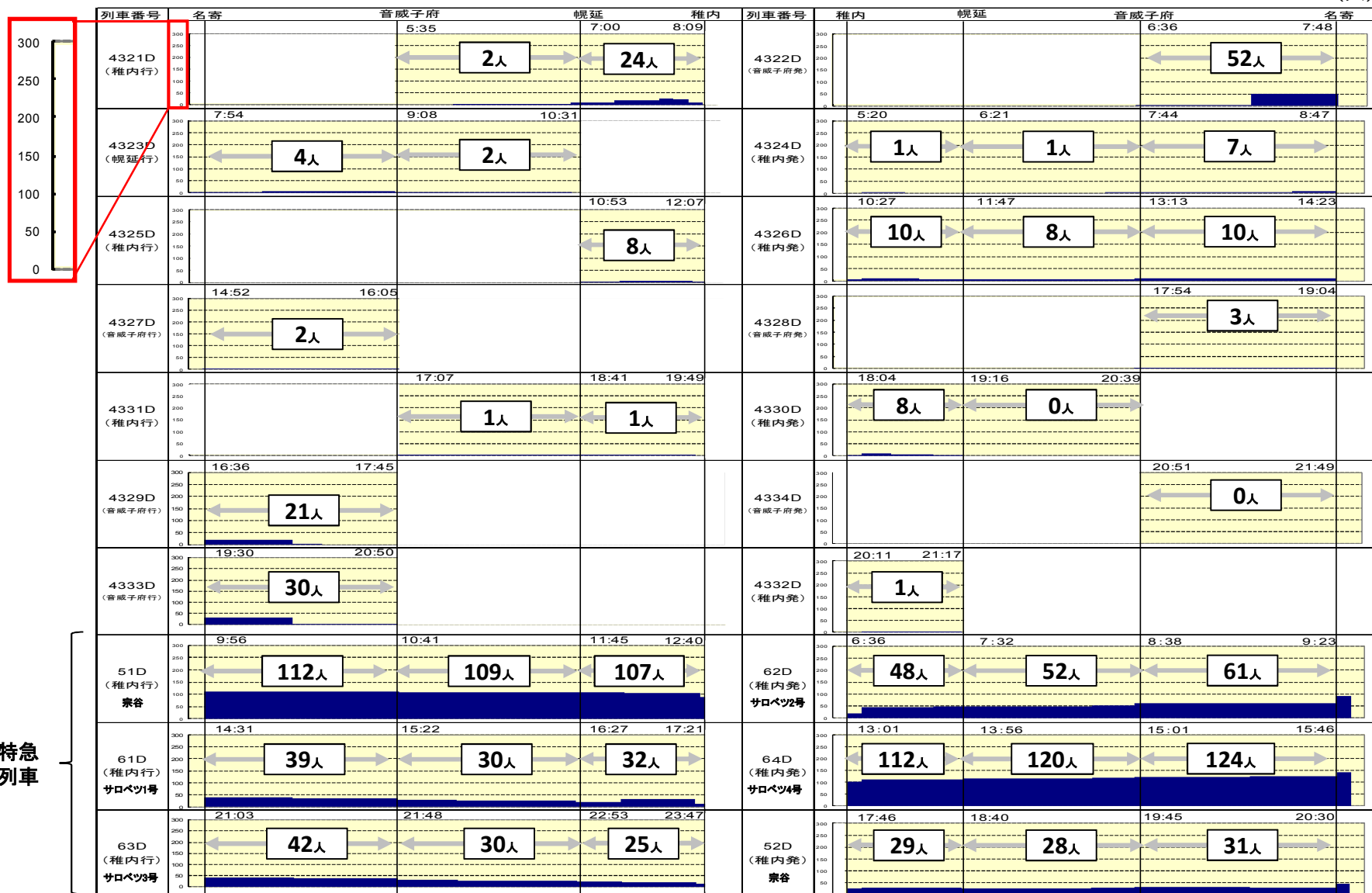
[名寄・稚内間]

人数は区間における最大乗車人員

◆下り列車 (名寄⇒稚内)

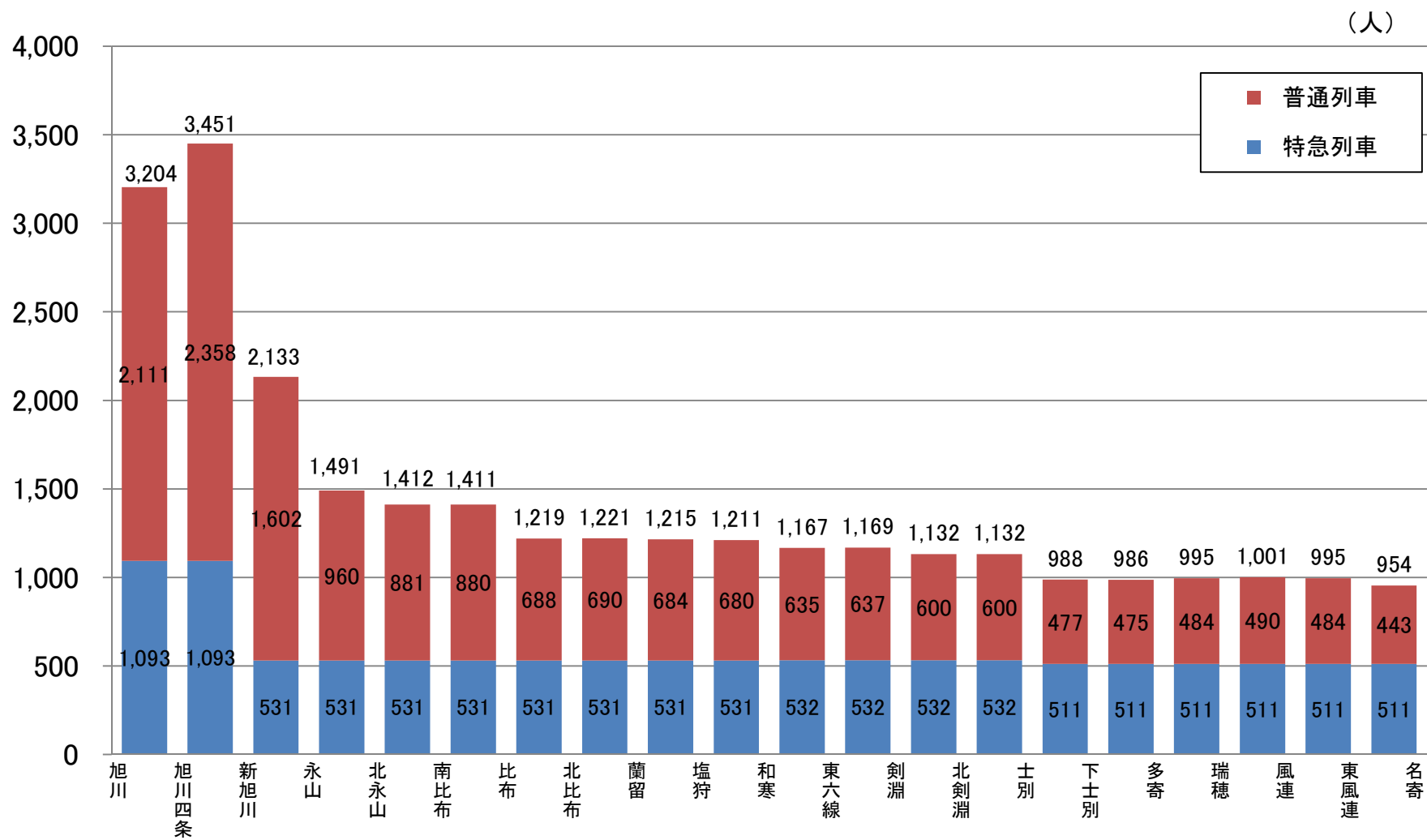
◆上り列車 (稚内⇒名寄間)

(人)



⑧ 駅間別乗車人員

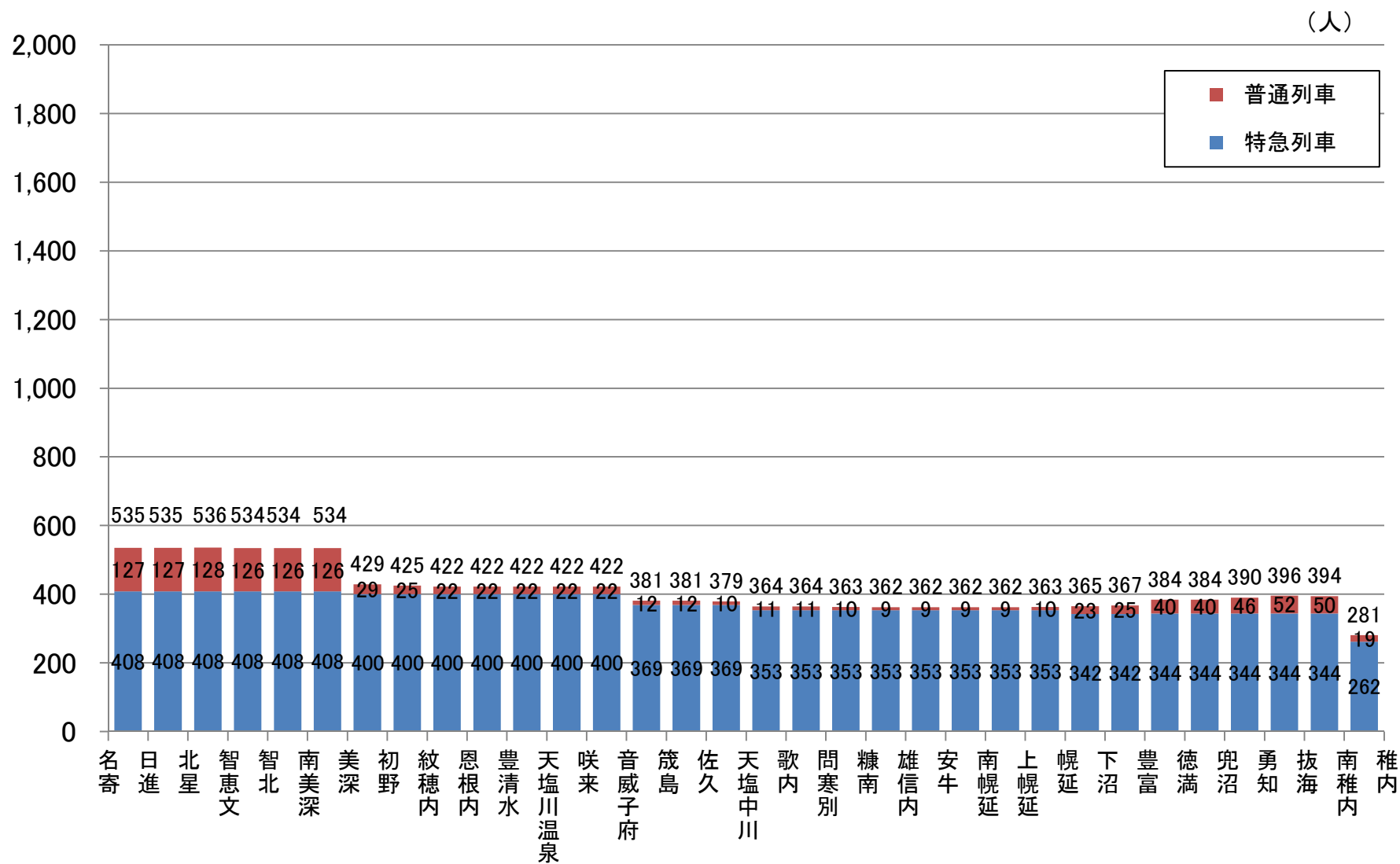
〔旭川・名寄間〕



※旭川・新旭川間は石北本線の乗車人員も含む。

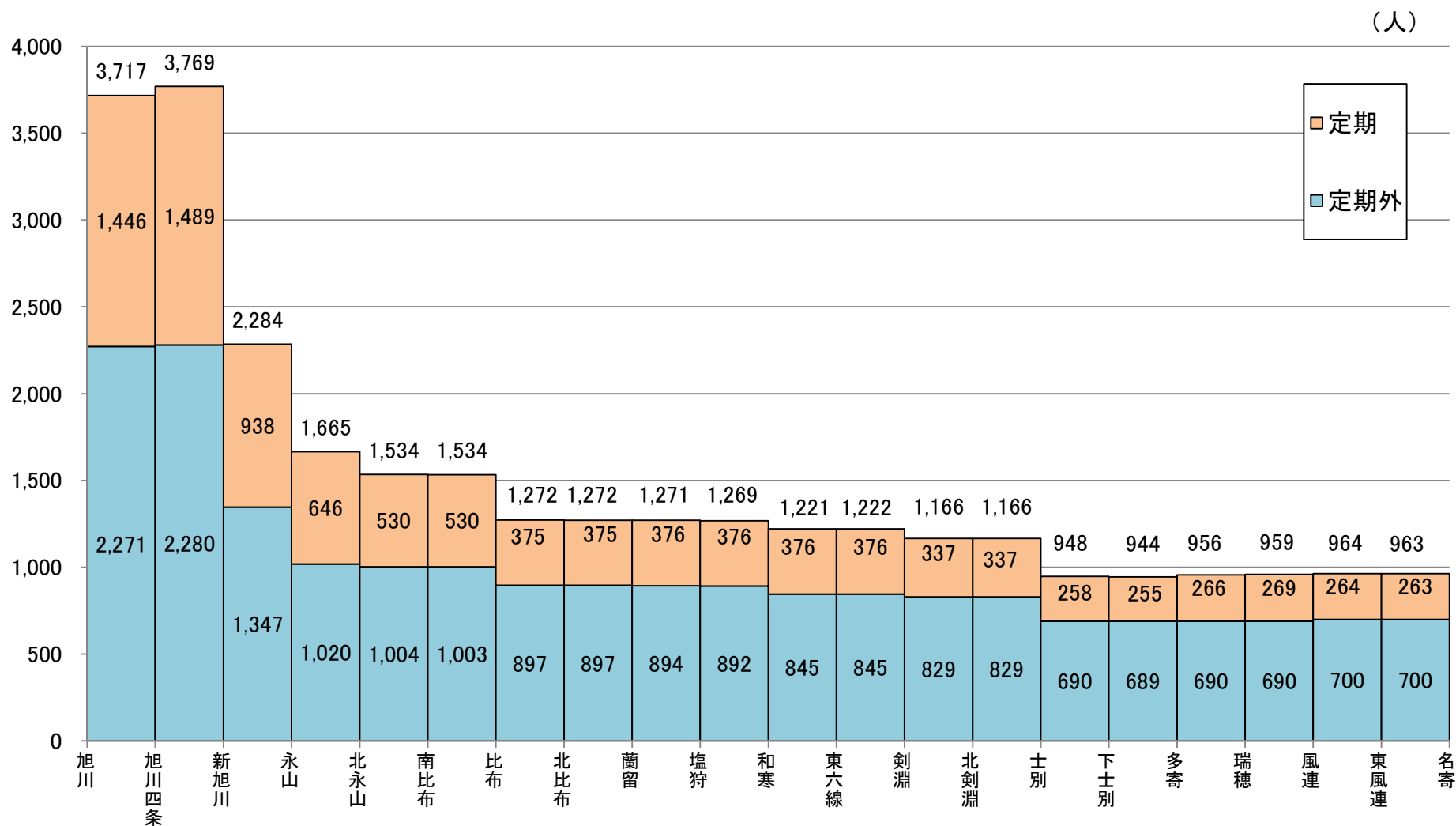
⑧ 駅間別乗車人員

[名寄・稚内間]



⑨ 駅間通過人員

[旭川・名寄間]

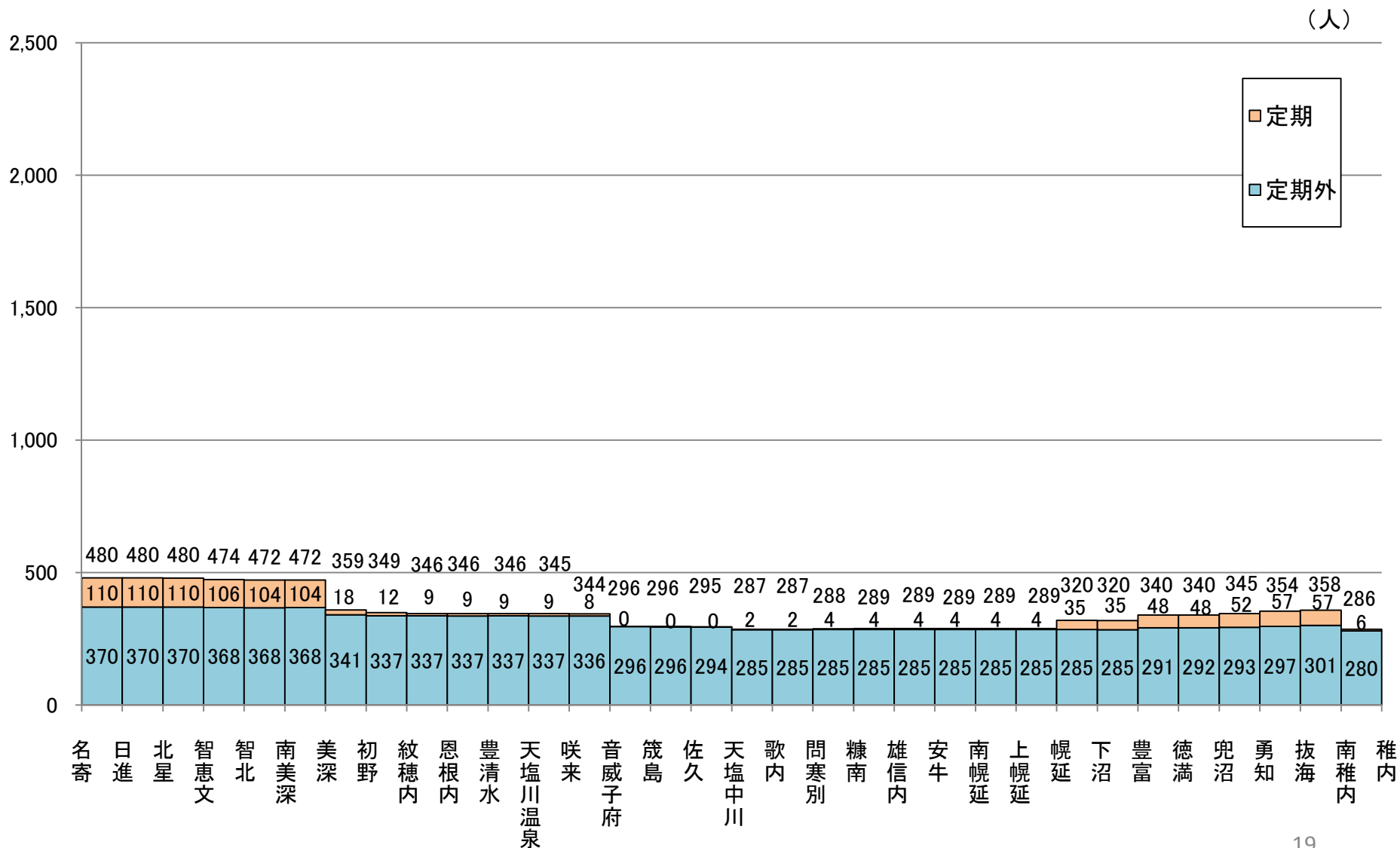


※旭川・新旭川間は石北本線の乗車人員も含む。

※端数処理のため合計値が合わない場合があります。

⑨ 駅間通過人員

[名寄・稚内間]



※端数処理のため合計値が合わない場合があります。

⑩定期券発売枚数

[旭川・名寄間]

(単位:枚)

| | 旭川 | 旭川四條 | 新旭川 | 永山 | 北永山 | 南比布 | 比布 | 北比布 | 蘭留 | 塩狩 | 和寒 | 東六線 | 剣淵 | 北剣淵 | 士別 | 下士別 | 多寄 | 瑞穂 | 風連 | 東風連 | 名寄 | 線区外 (石北方面) | 合計 | |
|---------------|----|------|-----|-------|------|-----|------|-----|----|----|------|-----|------|-----|------|-----|-----|----|------|-----|-------|---------------|------|-------|
| 線区外 (旭川以遠) | | 1.1 | 0.3 | 45.5 | 23.3 | | 3.8 | | | | 7.6 | | 2.0 | | 0.9 | | | | | | | | | 84.5 |
| 線区外 (名寄以遠) | | 5.3 | 3.5 | 11.0 | 0.7 | | | | | | | | | | | | | | | | | 0.3 | 20.7 | |
| 旭川 | | 1.7 | 0.3 | 72.5 | 22.3 | | 35.8 | 0.1 | | | 20.8 | | 28.7 | | 44.6 | 0.4 | 0.8 | | | | | 15.8 | | 242.0 |
| 旭川四條 | | | 1.2 | 3.5 | 8.9 | | 21.1 | | | | 0.2 | | 0.8 | | | | | | | | 1.8 | 8.8 | | 23.8 |
| 新旭川 | | | 1.8 | 1.3 | 3.6 | | | | | | 0.3 | | 0.8 | | | | | | | | 0.1 | 16.2 | | 22.2 |
| 永山 | | | | 1.8 | 0.5 | | 9.0 | | | | 9.8 | | 11.4 | | 11.3 | 0.8 | | | | | 7.3 | 0.2 | | 50.3 |
| 北永山 | | | | | | | 3.2 | | | | 0.2 | | 0.2 | | 1.4 | | | | | | | 1.6 | | 6.5 |
| 南比布 | | | | | | | 5.3 | | | | 1.0 | | | | | | | | | | | 5.8 | | 12.2 |
| 比布 | | | | | | | 0.8 | | | | | | | | | | | | | | 0.7 | 0.8 | | 3.3 |
| 北比布 | | | | | | | | | | | 0.1 | | 1.7 | | 0.2 | | | | | | 0.1 | | | 0.3 |
| 蘭留 | | | | | | | | | | | | | 0.8 | | | | | | | | | | | 0.8 |
| 塩狩 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 和寒 | | | | | | | | | | | | | 2.8 | | 20.7 | | | | | | | 15.2 | 0.3 | 38.9 |
| 東六線 | | | | | | | | | | | | | 0.3 | | 4.1 | | | | | | | | | 4.4 |
| 剣淵 | | | | | | | | | | | | | | | 18.4 | 0.5 | | | 1.7 | | 7.8 | | | 28.3 |
| 北剣淵 | | | | | | | | | | | | | | | 1.8 | | | | | | 0.9 | | | 2.7 |
| 士別 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 9.3 | | 51.5 | 0.7 | | 61.5 |
| 下士別 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1.8 | | 5.3 | | | 7.2 |
| 多寄 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0.1 | | | 0.1 |
| 瑞穂 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 6.3 | | 6.3 |
| 風連 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0.4 | 8.3 | | 8.8 |
| 東風連 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1.3 | | 1.3 |
| 名寄 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | | 1.1 | 0.7 | 122.8 | 58.5 | | 53.9 | 0.1 | | | 39.5 | | 48.8 | | 95.9 | 1.8 | 0.8 | | 11.0 | 0.4 | 116.3 | 32.9 | | 584.5 |
| | | 6.9 | 7.3 | 76.4 | 0.7 | | 25.5 | | | | 3.3 | | 1.8 | | 10.9 | | | | 1.8 | | 13.9 | 5.3 | | 153.7 |

凡例: ■ 通学定期券月平均発売枚数
■ 通勤定期券月平均発売枚数
 ※1ヶ月定期は1枚、3ヶ月定期は3枚、6ヶ月定期は6枚として集計
 ※経路は最も安価な経路で集計
 ※小数点第1位未満は四捨五入

⑩定期券発売枚数

[名寄・天塩中川間]

(単位:枚)

| | 名寄 | 日進 | 北星 | 智恵文 | 智北 | 南美深 | 美深 | 初野 | 紋穂内 | 恩根内 | 豊清水 | 天塩川温泉 | 咲来 | 音威子府 | 箴島 | 佐久 | 天塩中川 | 合計 |
|---------------|----|----|----|-----|-----|-----|------|-----|-----|-----|-----|-------|-----|------|----|----|------|------|
| 線区外 (名寄以遠) | | | | | | | 1.1 | | | | | | | | | | | 1.1 |
| 名寄 | | | | 2.8 | 0.9 | | 43.3 | 3.0 | 1.8 | | | | | 1.0 | | | | 52.8 |
| 日進 | | | | | | 0.3 | 0.8 | | | | | | | | | | | 1.1 |
| 北星 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 智恵文 | | | | | | | 0.6 | | | | | | | | | | | 0.6 |
| 智北 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 南美深 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 美深 | | | | | | | 0.2 | | | | | | | | | | | 0.2 |
| 初野 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 紋穂内 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 恩根内 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 豊清水 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 天塩川温泉 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 咲来 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 音威子府 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 箴島 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 佐久 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 天塩中川 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | | | | 2.8 | 0.9 | | 43.9 | 3.0 | 1.8 | | | | 0.3 | 2.8 | | | 0.2 | 55.3 |
| | | | | | | 0.3 | 2.1 | | | | | | 0.3 | 1.0 | | | | 3.8 |

凡例: 通学定期券月平均発売枚数
 通勤定期券月平均発売枚数
 ※1ヶ月定期は1枚、3ヶ月定期は3枚、6ヶ月定期は6枚として集計
 ※経路は最も安価な経路で集計
 ※小数点第1位未満は四捨五入

⑩定期券発売枚数

〔天塩中川・稚内間〕

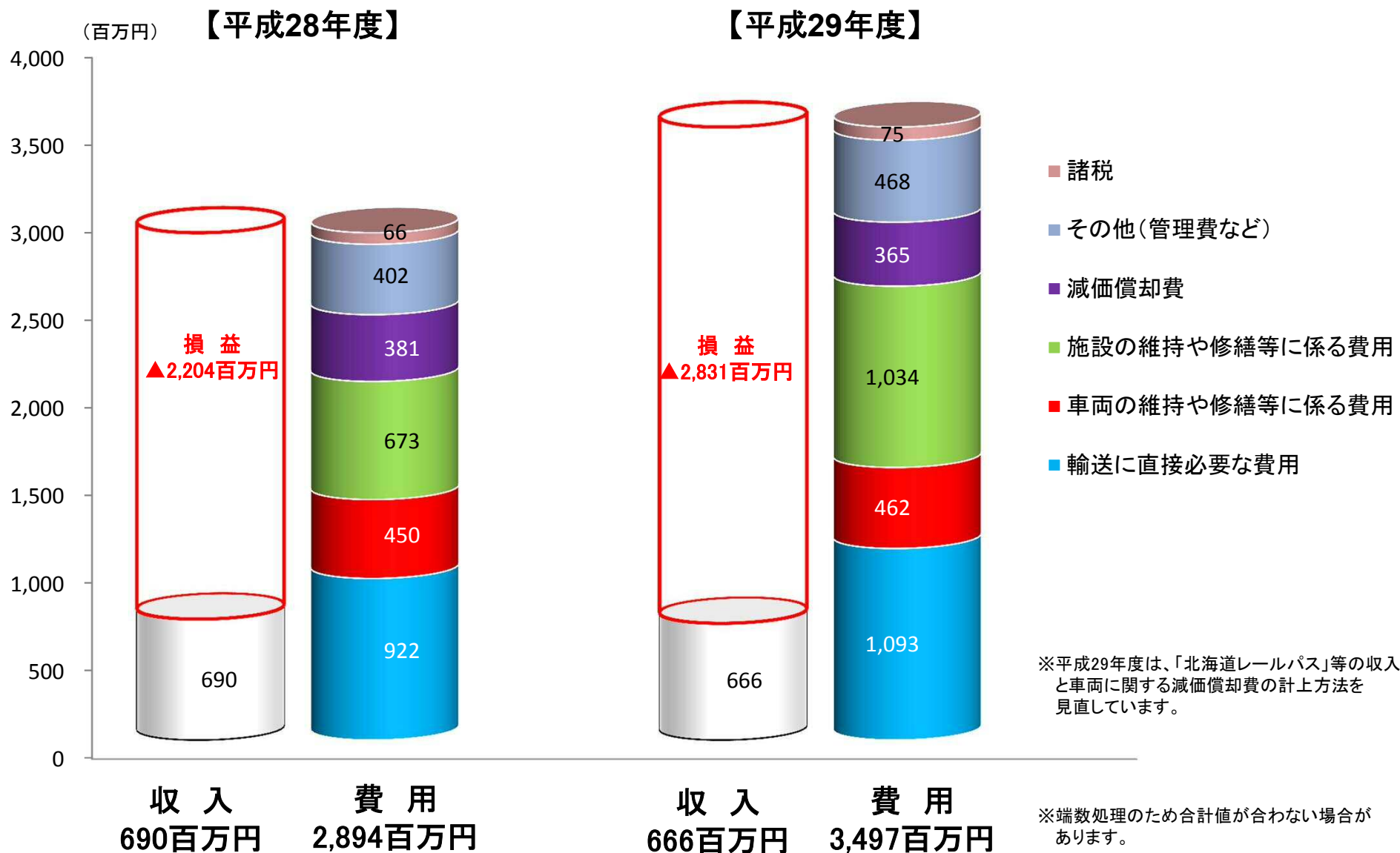
(単位:枚)

| | 歌 内 | 問 寒 別 | 糠 南 | 雄 信 内 | 安 牛 | 南 幌 延 | 上 幌 延 | 幌 延 | 下 沼 | 豊 富 | 徳 満 | 兜 沼 | 勇 知 | 抜 海 | 南 稚 内 | 稚 内 | 合 計 |
|---------------|--------|-------------|--------|-------------|--------|-------------|-------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|-------------|--------|--------|
| 天 塩 中 川 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 歌 内 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 問 寒 別 | | | | | | | | 0.9 | | | | | | | | | 0.9 |
| 糠 南 | | | | 0.2 | | | | | | | | | | | | | 0.2 |
| 雄 信 内 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 安 牛 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 南 幌 延 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 上 幌 延 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 幌 延 | | | | | | | | | 10.5 | | | | | | 4.9 | 1.0 | 16.4 |
| 下 沼 | | | | | | | | | | | | 0.1 | | | | | 0.1 |
| 豊 富 | | | | | | | | | | | | | | | 13.5 | 0.5 | 14.0 |
| 徳 満 | | | | | | | | | | | | | | | 1.8 | 1.6 | 3.3 |
| 兜 沼 | | | | | | | | | | | | | | | 1.8 | | 1.8 |
| 勇 知 | | | | | | | | | | | | | | | 2.7 | | 2.7 |
| 抜 海 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 南 稚 内 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 稚 内 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合 計 | | | | 0.2 | | | | 0.9 | | 10.5 | | 0.1 | | | 22.9 | 1.5 | 34.9 |
| 名寄・稚内間 合 計 | | | | | | | | | | | | | | | 1.8 | 1.6 | 4.5 |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | 90.2 |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | 8.3 |

凡例: 通学定期券月平均発売枚数
 通勤定期券月平均発売枚数
 ※1ヶ月定期は1枚、3ヶ月定期は3枚、6ヶ月定期は6枚として集計
 ※経路は最も安価な経路で集計
 ※小数点第1位未満は四捨五入

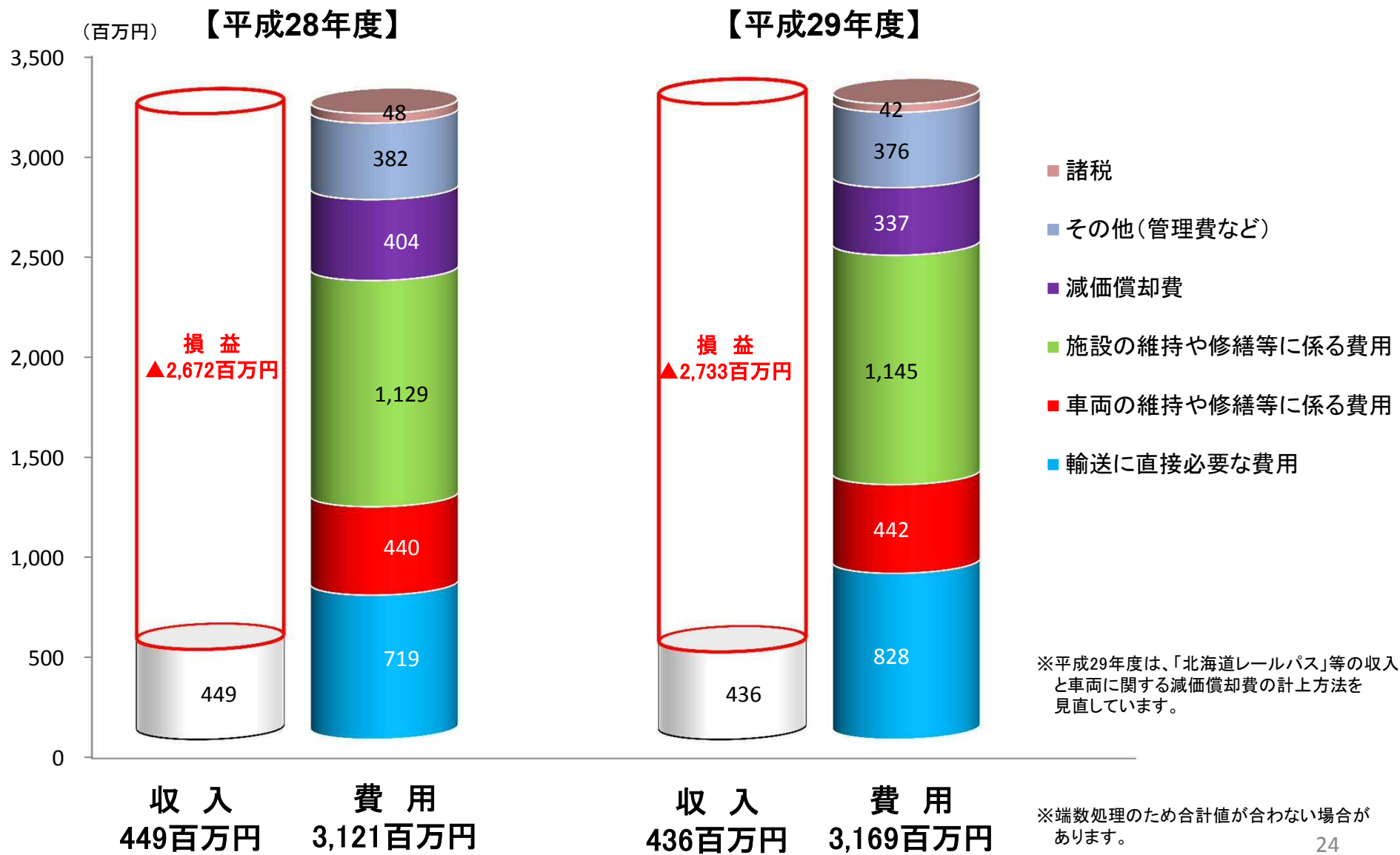
⑪線別収支

[旭川・名寄間]



⑪線区別収支

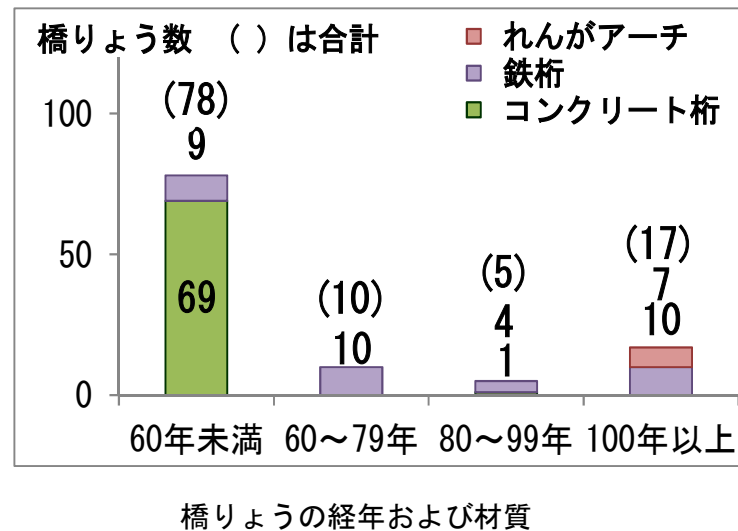
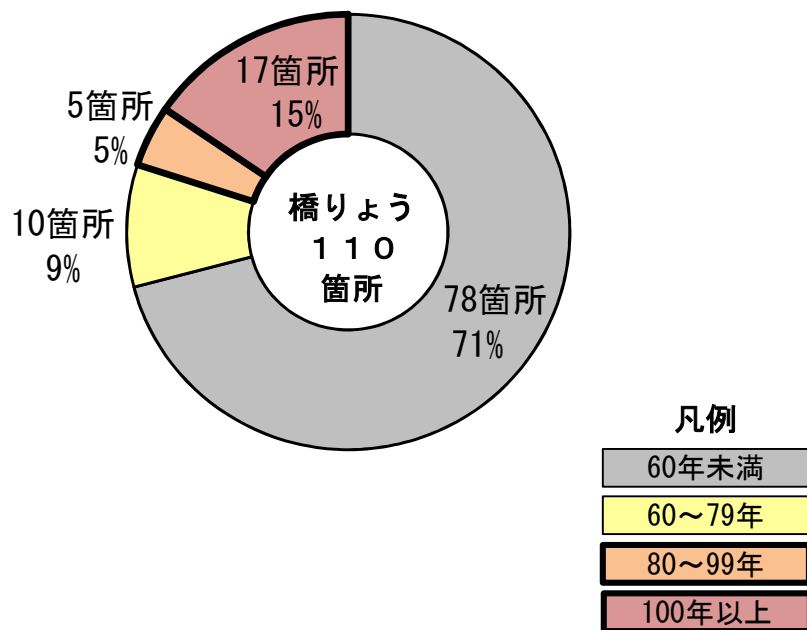
[名寄・稚内間]



⑫土木構造物の現況、土木構造物の大規模修繕・更新費用

・今後20年間で運営赤字とは別に必要となる土木構造物の大規模修繕・更新費用

[旭川・名寄間]

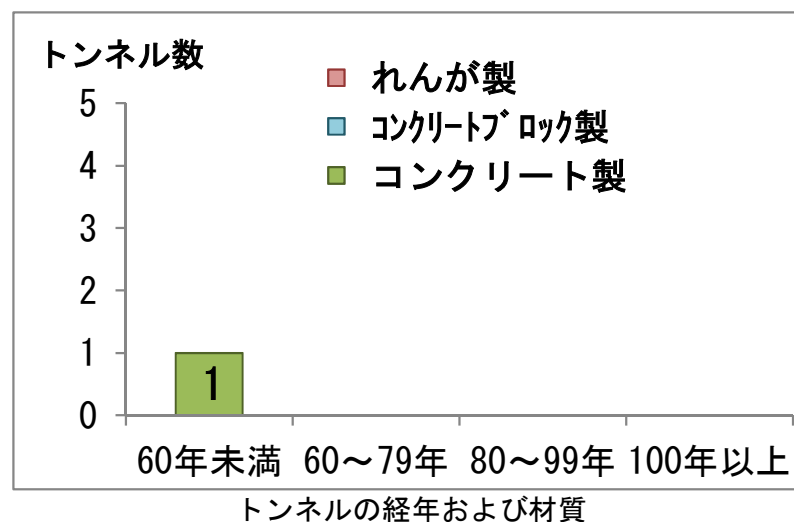
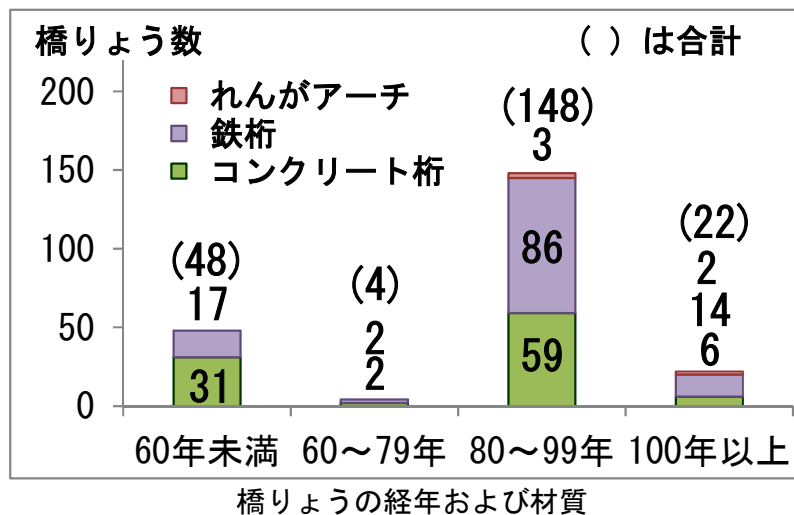
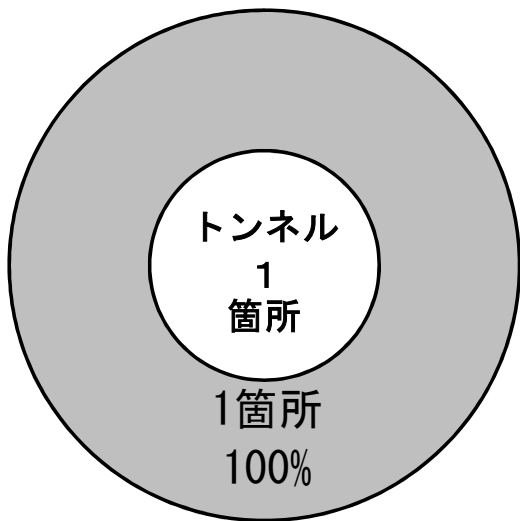
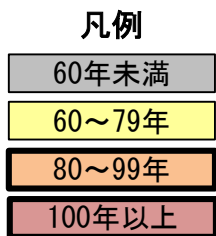
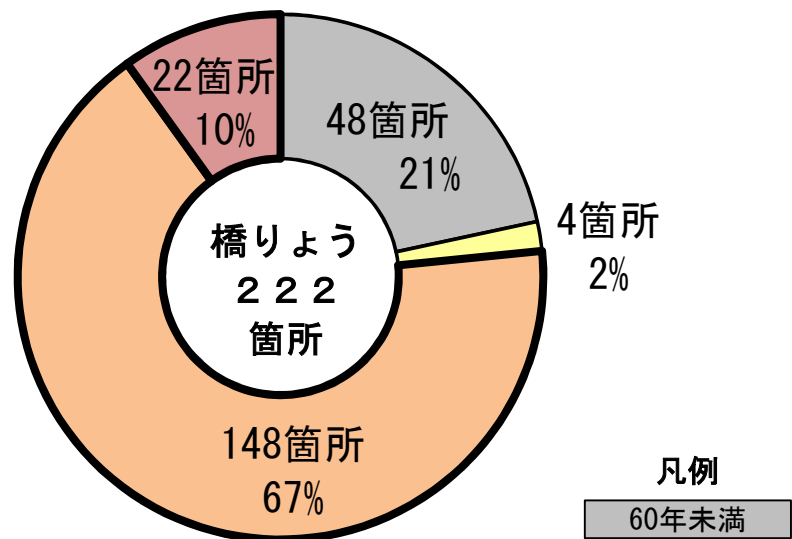


※平成29年1月現在

⑫土木構造物の現況、土木構造物の大規模修繕・更新費用

・今後20年間で運営赤字とは別に必要となる土木構造物の大規模修繕・更新費用

[名寄・稚内間]



※平成29年1月現在

○ 橋りょう

【鋼橋の腐食対策】

宗谷線 旭川・名寄間： 6億円
名寄・稚内間： 12億円

- ・ 広範囲にわたって腐食が進むと、橋りょうの寿命が短くなる
- ・ 経年の進行を踏まえ、鋼橋を永続的に使用するため、定期的な塗装の塗替えを実施



腐食が発生した橋りょう

(例:根室線 東滝川・赤平間 第3空知川橋りょう)

【鋼橋の亀裂対策】

宗谷線 旭川・名寄間： 1億円
名寄・稚内間： 4億円

- ・ 経年が進むにつれて、桁に亀裂が発生することがある
- ・ 亀裂発生を防ぐ予防的な措置として、亀裂の原因となる橋桁を支える台座部分（支承部）の不具合の修繕を事前に実施



亀裂が発生した橋りょう

(例:石北線 丸瀬布・瀬戸瀬間 金山湧別川橋りょう)

○ 橋りょう

【溶接補強桁の変状対策】

宗谷線 旭川・名寄間: 0億円

- ・ 明治時代に製作された古い鉄桁には、機関車の大型化に伴って、昭和初期に溶接補強されたものがある
- ・ 明治時代の鋼材は溶接に不向きであり、亀裂が発生しやすい一方、効果的な修繕方法がないことから、取替を実施



(例: 札沼線 知来乙・石狩月形間 須部都川橋りょう)

【橋脚の洗掘対策】

宗谷線 旭川・名寄間: 2億円

名寄・稚内間: 2億円

- ・ 増水時に川底が削られる（洗掘）ことで、橋脚の安定性が損なわれる恐れのある橋脚に対して根固め工を実施



(例: 宗谷線 糠南・雄信内間 問平陸橋)

○ トンネル

【トンネルの漏水対策】

宗谷線 名寄・稚内間：1億円

- つらら防止のため過去に設置された古い漏水防止工の劣化が進み、材料が剥がれたり、漏水が染み出てつららが発生し列車の運行に影響を及ぼす恐れがある
- 経年の進んだ古い漏水防止工から新型の漏水防止工への取替を実施



(例：函館線 熱郭・目名間 第2白井川トンネル)

○ ホーム・乗換跨線橋

【ホーム・乗換跨線橋の変状対策】

宗谷線 名寄・稚内間：2億円

- 軟弱地盤上に造られたホームや乗換跨線橋には、経年の進行に伴い徐々に沈下や傾斜が進むものがある
- 修繕により、変状をくい止めることが難しいものは、抜本的な対策として、新しい構造物への取替を実施



軟弱地盤上の乗換跨線橋

(例：宗谷線 幌延駅)

■今後20年間で運営赤字とは別に必要となる土木構造物の大規模修繕・更新費用

[旭川・名寄間]

| | 設備概況 | | 費用内訳(単位:億円) | | | |
|---------------|----------------------|------|-------------|----------|----|----|
| | 種別 | 数量 | 項目 | 数量 | 費用 | 計 |
| 宗谷線 旭川・名寄間 | 橋りょう | 110橋 | ①鋼橋の腐食対策 | 33橋(64連) | 6 | 9 |
| | | | ②鋼橋の亀裂対策 | 13連 | 1 | |
| | | | ③溶接補強桁の変状対策 | 2連 | 0 | |
| | | | ④橋脚の洗掘対策 | 5橋脚 | 2 | |
| | 経年進行に伴う恒常的な維持管理費用の増加 | | | | 1 | 1 |
| 計 | | | | | | 10 |

※ 金額は億円未満を四捨五入して表示しています。

■ 今後20年間で運営赤字とは別に必要となる土木構造物の大規模修繕・更新費用

〔名寄・稚内間〕

| | 設備概況 | | 費用内訳(単位:億円) | | | |
|---|----------------------|------|-------------|------------|----|----|
| | 種別 | 数量 | 項目 | 数量 | 費用 | 計 |
| 宗 谷 線 名 寄 ・ 稚 内 間 | 橋りょう | 222橋 | ①鋼橋の腐食対策 | 119橋(189連) | 12 | 18 |
| | | | ②鋼橋の亀裂対策 | 38連 | 4 | |
| | | | ③橋脚の洗掘対策 | 8橋脚 | 2 | |
| | トンネル | 1箇所 | トンネルの漏水対策 | 1箇所 | 1 | 1 |
| | ホーム・乗換跨線橋の変状対策 | | | 1箇所 | 2 | 2 |
| | 経年進行に伴う恒常的な維持管理費用の増加 | | | | 2 | 2 |
| | 計 | | | | 23 | 23 |

※ 金額は億円未満を四捨五入して表示しています。

⑬車両の更新費用

〔名寄・稚内間〕

■今後20年間で運営赤字とは別に必要となる車両の更新費用

1 車両の現状及び更新の考え方

- ・ 全車両が更新時期を迎えるため、新製車両への更新が必要
- ・ 一般用の新製車両については、現在試作車を製作中である電気式気動車を想定

2 今後20年間の車両更新費用

1の考え方に基づき算出した今後20年間の車両更新費用は以下のとおりです。
なお、更新車両数は平成29年4月時点のダイヤを前提として算出しています。
また、観光列車用（ノロッコ号、SL等）の車両は含んでいません。

（単位：両、億円）

| 線 区 | 更新車両数 | 車両更新費用 |
|-------------|-------|--------|
| 宗谷線（名寄～稚内間） | 21 | 58 |

※ 金額は億円未満を四捨五入して表示しています。